

# CipherLab

バーコードスキャナー1504B、1504P  
設定リファレンスマニュアル

設定バーコード付記

Ver. JP1.00





本マニュアルは「CipherLab: 1504B Barcode Scanner User Guide Ver.1.00」に基づいて作成しました。

Copyright © 2017 CIPHERLAB CO., LTD.  
無断転用禁止

ソフトウェアには CIPHERLAB CO., LTD.の機密情報が含まれています。この情報は使用および開示制限を含めライセンス契約に従って提供されており、また著作権法により保護されています。ソフトウェアのリバースエンジニアリングは禁じられています。

製品開発は今後も継続的に行っており、この情報は事前の通知なしに変更されることがあります。本書に含まれる情報と知的所有権は CIPHERLAB とクライアント間で機密とされ、CIPHERLAB CO., LTD.に帰属する独占的財産と見なされます。文書に何らかの問題が見つかった場合、書面にて当社に報告してください。

CIPHERLAB は、本文書に間違いがないことを保証しません。

本出版物のいかなる部分も、CIPHERLAB CO., LTD.の書面による事前の許可なしには、いかなる条件下でも、また電子的、機械的、写真複写、録音、その他のいかなる手段によっても、コピー、検索システムへの記憶、または転送を行うことができません。

製品のコンサルタント業務とサポートについては、地域の販売代理店にお問い合わせください。また、当社の Web サイトで詳細を見ることもできます。

CipherLab ロゴは、CIPHERLAB CO., LTD.の登録商標です。

すべてのブランド、製品・サービス、および商標名はそれぞれの登録名義人の資産です。

編集でこれらの名前を使用しているのは識別および所有者の利益を目的とするもので、侵害の意図はありません。

## 目次

はじめに.....	1
サポートしているバーコードシンボル .....	1
クイックスタート.....	3
設定モードに入る .....	4
設定モードの終了.....	4
デフォルト設定.....	5
ユーザー設定をデフォルトとして保存 .....	5
ユーザーデフォルトに戻す .....	5
システムデフォルトに戻す.....	5
セットアップバーコードを読み込む.....	6
パラメータの設定.....	6
現在の設定をリスト表示 .....	10
ワンスキャンセットアップバーコードの作成.....	12
1D ワンスキャンバーコード .....	12
2D ワンスキャンバーコード .....	13
バーコードスキャナーを使う.....	15
1.1 電源 ON.....	16
1.2 転送バッファ .....	16
1.3 LED インジケーター .....	17
1.3.1 グッドリード LED.....	17
1.3.2 グッドリード LED 持続時間.....	17
1.4 ビープ音 .....	18
1.4.1 ビープ音量.....	18
1.4.2 グッドリードビープ音 .....	19
1.5 “NR”(Not READ)をホストに転送.....	20
1.6 スキャンモード.....	21
1.6.1 レーザーモード .....	22
1.6.2 自動 OFF モード .....	22
1.6.3 自動電源 OFF モード .....	22
1.6.4 エイミングモード.....	23
1.6.5 マルチバーコードモード.....	23
1.6.6 プレゼンテーションモード .....	24
1.7 スキャンタイムアウト .....	25
1.8 再読み取り間隔 .....	26
1.9 読み取り冗長性(1D).....	27

1.10	UPC/EAN のアドオンセキュリティ.....	28
1.11	オートセンスモード.....	29
1.12	ケーブル自動判別.....	30
1.13	ピックリストモード.....	31
1.14	携帯電話/ディスプレイモード.....	31
<b>インターフェースの選択 .....</b>		<b>33</b>
2.1	キーボードウエッジ .....	34
2.1.1	キーボードウエッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択する .....	35
2.1.2	キーボード設定.....	37
2.1.3	キャラクター間転送間隔 .....	45
2.1.4	ファンクションコード間転送間隔.....	45
2.1.5	特殊キーボード.....	45
2.2	RS-232.....	46
2.2.1	RS-232 インターフェースをアクティブにする.....	46
2.2.2	ボーレート.....	46
2.2.3	データビット.....	47
2.2.4	パリティ.....	47
2.2.5	ストップビット.....	48
2.2.6	フロー制御.....	48
2.2.7	キャラクター間転送間隔.....	49
2.2.8	ファンクションコード間転送間隔.....	49
2.2.9	ACK/NAK タイムアウト.....	49
2.3	USB HID.....	51
2.3.1	USB HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択する .....	51
2.3.2	キーボード設定.....	53
2.3.3	キャラクター間転送間隔 .....	59
2.3.4	ファンクションコード間転送間隔.....	59
2.3.5	HID 文字転送モード .....	60
2.3.6	特殊キー.....	60
2.4	USB Virtual COM.....	61
2.4.1	USB Virtual COM をアクティブにする .....	61
2.4.2	ファンクションコード間転送間隔.....	61
2.4.3	ACK/NAK タイムアウト.....	62
2.5	USB VCOM_CDC .....	63
2.5.1	USB VCOM_CDC をアクティブにする.....	63
2.5.2	ファンクションコード間転送間隔.....	63
2.5.3	ACK/NAK タイムアウト.....	63
<b>バーコードシンボルの設定 .....</b>		<b>65</b>
3.1	Codabar .....	66
3.1.1	セキュリティーレベル.....	66
3.1.2	スタート/ストップ文字の転送.....	66
3.1.3	スタート/ストップパターン文字の選択.....	67

---

3.1.4	CLSI 変換.....	67
3.1.5	コード長必要条件.....	68
3.2	Code 25 – Industrial 25.....	69
3.2.1	スタート/ストップパターンの選択.....	69
3.2.2	チェックデジットを確認する.....	69
3.2.3	チェックデジットを転送する.....	70
3.2.4	コード長必要条件.....	70
3.3	Code 25 – Interleaved 25.....	71
3.3.1	スタート/ストップパターンの選択.....	71
3.3.2	チェックデジットを確認する.....	71
3.3.3	チェックデジットを転送する.....	72
3.3.4	コード長必要条件.....	72
3.4	Code 25 – Matrix 25.....	73
3.4.1	スタート/ストップパターンの選択.....	73
3.4.2	チェックデジットの確認.....	73
3.4.3	チェックデジットの転送.....	74
3.4.4	コード長必要条件.....	74
3.5	Code 39.....	75
3.5.1	スタート/ストップ文字の転送.....	75
3.5.2	チェックデジットの確認.....	75
3.5.3	チェックデジットの転送.....	75
3.5.4	標準/Full ASCII Code 39 のサポート.....	76
3.5.5	セキュリティーレベル.....	76
3.5.6	アスタリスク (*)をデータの一部とする.....	76
3.5.7	コード長必要条件.....	77
3.6	Code 93.....	78
3.6.1	コード長必要条件.....	78
3.7	Code 128.....	79
3.7.1	セキュリティーレベル.....	79
3.8	EAN-8.....	80
3.8.1	EAN-13 に変換.....	80
3.8.2	チェックデジットを転送する.....	81
3.8.3	変換フォーマット.....	81
3.9	EAN-13.....	82
3.9.1	EAN-13 アドオンモード.....	83
3.9.2	ISBN に変換する.....	85
3.9.3	ISSN に変換する.....	86
3.9.4	チェックデジットを転送する.....	86
3.9.5	セキュリティーレベル.....	86
3.10	GS1-128 (EAN-128).....	87
3.10.1	Code ID を転送する.....	87
3.10.2	フィールド区切り文字(GS 文字).....	87
3.10.3	GS1 フォーマット.....	88
3.10.4	アプリケーション識別子.....	88

3.11	ISBT 128 .....	89
3.11.1	ISBT 連結 .....	89
3.12	MSI.....	90
3.12.1	チェックデジットを確認する .....	90
3.12.2	チェックデジットの転送 .....	90
3.12.3	コード長必要条件.....	91
3.13	French Pharmacode.....	92
3.13.1	チェックデジットの転送 .....	92
3.14	Italian Pharmacode .....	92
3.14.1	チェックデジットの転送 .....	92
3.15	Plessey .....	93
3.15.1	UK Plessey に変換する .....	93
3.15.2	チェックデジットの転送 .....	93
3.16	GS1 DataBar (RSS ファミリー) .....	94
3.16.1	Code ID の選択 .....	94
3.16.2	GS1 DataBar Omnidirectional (RSS-14).....	95
3.16.3	GS1 DataBar Expanded (RSS Expanded) .....	96
3.16.4	GS1 DataBar Limited (RSS Limited).....	97
3.16.5	フィールド区切り文字 (GS 文字).....	98
3.16.6	GS1 フォーマット .....	98
3.16.7	Application ID マーク.....	98
3.16.8	GS1 DataBar セキュリティーレベル.....	99
3.17	Telepen.....	99
3.17.1	AIM Telepen のサポート .....	99
3.18	UPC-A.....	100
3.18.1	EAN-13 へ変換 .....	100
3.18.2	システム番号の転送 .....	101
3.18.3	チェックデジットの転送 .....	101
3.19	UPC-E .....	102
3.19.1	システムナンバーの選択 .....	102
3.19.2	UPC-A に変換 .....	103
3.19.3	システムナンバーの転送 .....	103
3.19.4	チェックデジットの転送 .....	103
3.20	Code 11 .....	104
3.20.1	チェックデジットの確認 .....	104
3.20.2	チェックデジットの転送 .....	104
3.20.3	セキュリティーレベル.....	105
3.20.4	コード長必要条件.....	105
3.21	2D Symbologies.....	106
3.21.1	PDF417 .....	106
3.21.1	チェックデジットの確認 .....	106
3.21.3	Data Matrix .....	107
3.21.4	QR Code .....	108
3.21.5	MicroQR.....	109

<b>出力フォーマットの設定</b> .....	<b>111</b>
4.1 大文字・小文字の区別 .....	112
4.2 文字置換 .....	113
4.2.1 文字置換セットの選択 .....	114
4.2.2 文字置換用のシンボル体系(3 セットすべて) .....	115
4.3 プレフィックス/サフィックスコード .....	123
4.4 Code ID .....	124
4.4.1 定義済み Code ID の選択 .....	124
4.4.2 Code ID の変更 .....	127
4.4.3 Code ID 設定の消去 .....	129
4.5 長さコード (Length Code) .....	130
4.6 マルチバーコードエディタ .....	136
4.6.1 バーコード連結の編集 .....	137
4.6.2 バーコードの連結をアクティブにする .....	138
4.7 特定文字の削除 .....	139
<b>データ編集用のフォーマットを適用する</b> .....	<b>141</b>
5.1 編集フォーマットをアクティブにする .....	142
5.1.1 編集フォーマットをアクティブにする .....	142
5.1.2 排他的データ編集 .....	143
5.2 編集フォーマット設定方法 .....	144
5.2.1 編集フォーマットの選択 .....	145
5.2.2 編集フォーマットをデフォルト値に戻す .....	146
5.3 フォーマットの設定 – データ基準の定義 .....	147
5.3.1 適用コードタイプ .....	147
5.3.2 データ長 .....	154
5.3.3 一致する文字列と位置 .....	154
5.4 フォーマットを設定する – データフィールドの定義 .....	155
5.4.1 開始位置 .....	155
5.4.2 フィールド調整 .....	155
5.4.3 フィールド総数 .....	156
5.4.4 フィールド設定 .....	157
5.4.5 休止フィールド設定 .....	164
5.5 フォーマットの設定 – 転送シーケンスの定義 .....	165
5.6 プログラミング例 .....	169
5.6.1 例 1 .....	169
5.6.2 例 2 .....	170
<b>ファームウェアのアップグレード</b> .....	<b>171</b>
RS-232 を使う .....	171
USB Virtual COM を使う .....	173



<b>ホストシリアルコマンド .....</b>	<b>175</b>
シリアルコマンド.....	175
例.....	177
<b>キーボードウエッジ .....</b>	<b>179</b>
キータイプ、ステータス.....	181
キータイプ.....	181
キーステータス.....	181
例.....	182
<b>N 進法.....</b>	<b>183</b>
10 進法.....	183
16 進法.....	184
ASCII Table.....	186
<b>キーボードタイプのワンスキャンバーコード.....</b>	<b>187</b>
キーボードウエッジ.....	187
Direct USB HID を使う.....	191



## はじめに

サポートしているバーコードシンボル			
サポートしているバーコードシンボル		デフォルト	
Codabar		有効	
Code 93		有効	
MSI			無効
Plessey			無効
Telepen			無効
Code 128	Code 128	有効	
	GS1-128 (EAN-128)	有効	
	ISBT 128 (Ver.1.10 以降有効)	有効	
Code 2 of 5	Industrial 25	有効	
	Interleaved 25	有効	
	Matrix 25		無効
Code 3 of 9	Code 39	有効	
	Italian Pharmacode		無効
	French Pharmacode		無効
EAN/UPC	EAN-8	有効	
	EAN-8 アドオン 2		無効
	EAN-8 アドオン 5		無効
	EAN-13	有効	
	EAN-13 & UPC-A アドオン 2		無効
	EAN-13 & UPC-A アドオン 5		無効
	ISBN		無効
	UPC-E0	有効	
	UPC-E1		無効
UPC-E アドオン 2		無効	



	UPC-E アドオン 5		無効
	UPC-A	有効	
Code 11			無効
GS1 DataBar (RSS)	GS1 DataBar Omnidirectional (RSS-14)		無効
	GS1 DataBar Truncated		無効
	GS1 DataBar Limited (RSS Limited)		無効
	GS1 DataBar Expanded (RSS Expanded)		無効
<b>2D Symbologies</b>	PDF417	有効	
	MicroPDF417		無効
	Data Matrix	有効	
	QR Code	有効	
	MicroQR		無効



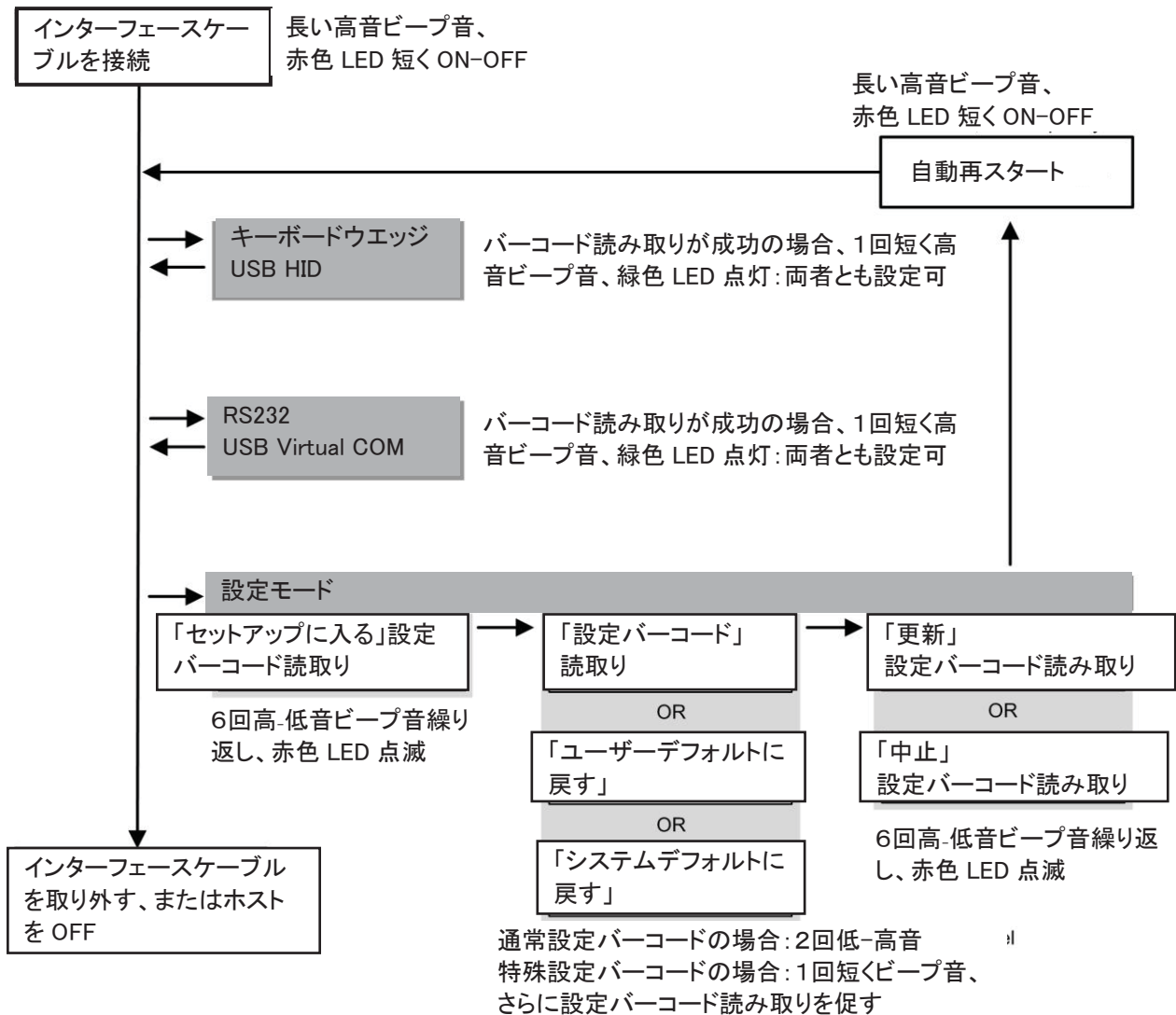
## クイックスタート

スキャナーの設定は本マニュアル記載のセットアップバーコードを読むことで、または *ScanMaster* ソフトウェアを通して行うことができます。

本セクションでは、セットアップバーコードを読むことでスキャナー設定する手順について説明し、デモンストレーションの例をいくつか紹介しています。

注記: RS-232 又は USB Virtual COM をインターフェースとして選択している場合には、ホストはシリアルコマンドをダイレクトにスキャナーに転送して設定できます。

例えば HyperTerminal.exe を実行して設定コマンドを転送できます。 [付表2ホストシリアルコマンド](#)を参照。



更新

## 設定モードに入る

スキャナーが設定モードに入るには、スキャナーに「設定モードに入る」バーコードを読み取らせてます。このコードは、本マニュアルのほとんどすべての偶数ページの下部にあります。

- ▶ スキャナーは6回のビーブ音を返し、LEDインジケータがバーコードを読み取った後に赤色に点滅し始めます。

設定モードに入る



## 設定モードの終了

スキャナーが設定を保存し、設定モードを終了するためには、スキャナーに「更新」バーコードを読み取らせてます。このコードは、本マニュアルのほとんどすべての奇数ページの下部にあります。変更を保存せずに設定モードを終了したい場合、「中止」バーコードを読み取らせてください。

- ▶ 「セットアップに入る」バーコードを読み取るように、スキャナーは6回のビーブ音を返し、LEDインジケータがバーコードを読み取った後に赤色に点滅し、数秒待つと、スキャナーが自動的に再起動します。

更新



109999

中止



109998



セットアップに入る

## デフォルト設定

### ユーザー設定をデフォルトとして保存

ユーザーデフォルトとしてカスタマイズされた設定を保存するには、スキャナーに「ユーザーデフォルトとして保存」バーコードを読み取らせます。これは通常のセットアップバーコードで、スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返します。

「更新」バーコードを読み取った後、現在の設定はユーザーデフォルトとして保存されます

ユーザーデフォルトとして保存



### ユーザーデフォルトに戻す

先に保存したユーザーデフォルトに戻すには、スキャナーに「ユーザーデフォルトに戻す」バーコードを読み取らせる必要があります。これは通常のセットアップバーコードで、スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返します。

- ▶ 「更新」バーコードを読み取った後、スキャナーのすべてのパラメータはカスタマイズされた値に戻ります。

ユーザーデフォルトに戻す



### システムデフォルトに戻す

工場出荷時のデフォルトに戻すには、スキャナーに「システムデフォルトに戻す」バーコードを読み取らせます。これは通常のセットアップバーコードで、スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返します。

- ▶ 「更新」バーコードを読み取った後、スキャナーのすべてのパラメータはデフォルト値に戻ります。

システムデフォルトに戻す



注記: システムデフォルト値は各設定の欄に「アスタリスク "\*"」で付記されています。



更新

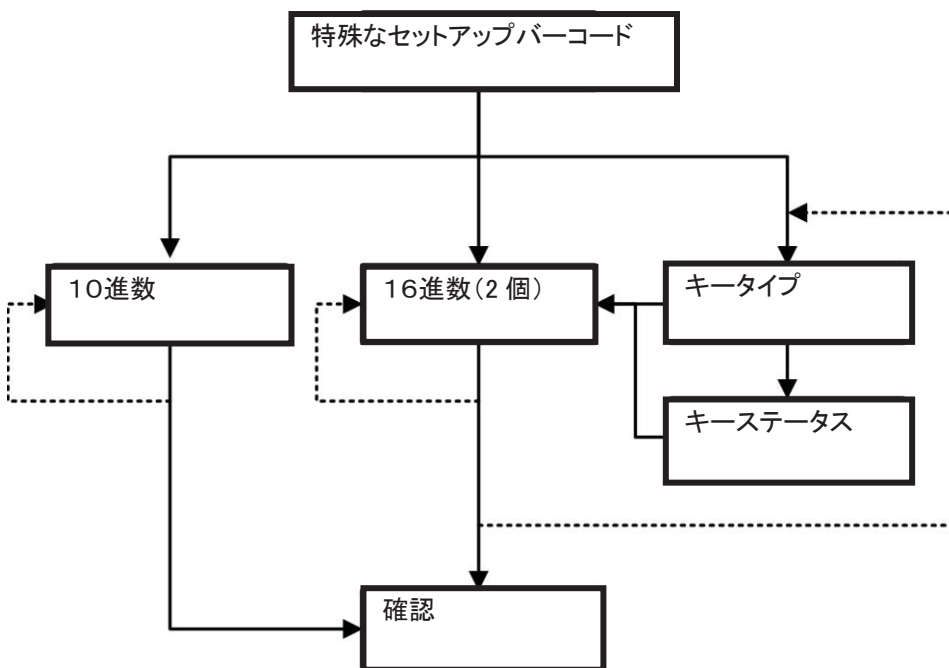
## セットアップバーコードを読み込む

### パラメータの設定

ほとんどのスキャナーパラメータの場合、新しい値に設定するには1回の読み取りだけで可能です。それぞれのパラメータが正常に設定されると、スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返します。しかし、他のある特殊パラメータの場合、設定を完了するにはさらに複数の読み取りが必要となる場合があります。この場合、スキャナーは短いビープ音を返し、さらに多くのセットアップバーコードを読み取る必要があることを示します。これらの特殊パラメータでは以下の、1つ以上のセットアップバーコードを読み取る必要があります。

- ▶ 数字バーコード、例えば、キーボードタイプ、キャラクター間転送間隔、長さの必要条件
- ▶ 16進法のバーコード、例えば、プリフィックス、サフィックスなどの文字列
- ▶ 「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを変更するかどうかを決定します。

これらの特殊パラメータの設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返し入力値が確認されたことを示します。





以下の例は、後でユーザーデフォルト戻せるように、「ユーザーデフォルト」として設定を保存する方法を示しています。

ステップ	作業	正しく設定されたときのフィードバック
1	スキャナーの電源を ON にする...	スキャナーは 1 回の長いビープ音(高いトーン)を返し、その LED インジケータは赤色に点灯してすぐに消えます。
2	設定モードに入る...	スキャナーは 6 回のビープ音(高-低のトーンが 3 回繰り返される)を返し、LED インジケータが赤色に点滅します。
3	セットアップバーコードを読む...	通常のセットアップバーコードを読み取っている場合、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。
例:	* Industrial25を有効にする	
	ユーザーデフォルトして保	
4	設定モードを終了する...	「設定モードに入る」と同じです。
	更新	
	中止	
		
	または	
		
5	スキャナーは自動的に再起動します...	「スキャナーの電源を ON にする」と同じ
*	設定エラーが発生したとき...	スキャナーは 1 回の長いビープ音(低いトーン)を返します。



更新

以下の例は、数値パラメータの設定方法を示しています。

**ステップ 作業**

1 スキャナーの電源を ON にする...

2 設定モードに入る...  
セットアップに入る



3 セットアップバーコードを読む...  
例:  
\* Industrial25 を有効にする

通常のセットアップ  
バーコード



固定長を有効にする

通常のセットアップバ  
ーコード

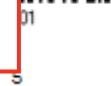


最大長(\*126)または固定長 1

特殊なセットアップ  
バーコード



10 進法バーコード



確認



4 設定モードを終了する...  
更新



中止



または

5 スキャナーは自動的に再起動します...

**正しく設定されたときのフィードバック**

スキャナーは 1 回の長いビープ音(高いトーン)を返し、その LED インジケータは赤色に点灯してすぐに消えます。  
スキャナーは 6 回のビープ音(高-低のトーンが 3 回繰り返される)を返し、LED インジケータが赤色に点滅を開始します。

通常のセットアップバーコードを読み取っている場合、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。

スキャナーは「最大長」などの特殊なセットアップバーコードを読み取っている場合、1 回の短いビープ音を返し、セットアップがさらに多くのバーコードを読み取るように求めていることを示します。

「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。

入力値が確認されると、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。

「設定モードに入る」と同じです。

「スキャナーの電源を ON にする」と同じ

8



セットアップに入る

以下の例は、STRINGパラメータの設定方法を示しています。

**ステップ アクション**

1 スキャナーの電源を ON にする...

2 設定モードに入る...  
セットアップに入る



3 セットアップバーコードを読む...

例: プリフィックスの設定



特殊なセットアップ  
バーコード



左 Alt の追加



16 進バーコード



確認



4 設定モードを終了する...

更新



中止



5 スキャナーは自動的に再起動します...

**正しく設定されたときのユーザーフィードバック**

スキャナーは 1 回の長いビープ音(高いトーン)を返し、その LED インジケータは赤色に点灯してすぐに消えます。  
スキャナーは 6 回のビープ音(高-低のトーンが 3 回繰り返される)を返し、LED インジケータが赤色に点滅を開始します。

スキャナーは「プリフィックスコード」などの特殊なセットアップバーコードを読み取っている場合、1 回の短いビープ音を返し、セットアップがさらに多くのバーコードを読み取るように求めていることを示します。

「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを変更するかどうかを決定します。

▶ [付表 3](#) を参照してください

目的の文字列については、「16 進値」バーコードを読み取ります。例えば、頭に「+」の文字を置くスキャナーの場合、「2」と「B」を読み取ります。

▶ [付表 4 「16 進法」](#) を参照してください

入力値が確認されると、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。

「設定モードに入る」と同じです。

「スキャナーの電源を ON にする」と同じ



更新

## 現在の設定をリスト表示

スキャナーのすべてのパラメータの現在の設定は、ユーザー検査のためにホストコンピュータに転送できます。これらのリストには、以下に示すページが含まれます。スキャナーに「ページをリスト表示」バーコードを読み取らせることで関心のあるページを選択できます。スキャナーは2回のビープ音(低-高トーン)を返し、選択したページを直ちにホストに転送します

ファームウェアバージョン、シリアル番号、インターフェース、ブザー、その他のスキャナーパラメータに関するリスト設定

リストページ 1



プリフィックス、サフィックス、長さコード設定(1/2)に関するリスト設定

リストページ 2



プリフィックス、サフィックス、長さコード設定(2/2)に関するリスト設定

リストページ 3



Code IDに関するリスト設定

リストページ 4



関連するリスト設定読み取り可能なシンボル体系(1/2)

リストページ 5



関連するリスト設定読み取り可能なシンボル体系(2/2)

リストページ 6



シンボル体系に関するリスト設定(1/3)

リストページ 7



シンボル体系に関するリスト設定(2/3)

リストページ 8



シンボル体系に関するリスト設定(3/3)

リストページ 9



(予約済み)

リストページ 10



編集フォーマットに関するリスト設定 1  
(1/2)

リストページ 11



編集フォーマットに関するリスト設定 1  
(2/2)

リストページ 12



編集フォーマットに関するリスト設定 2  
(1/2)

リストページ 13



編集フォーマットに関するリスト設定 2  
(2/2)

リストページ 14



編集フォーマットに関するリスト設定 3  
(1/2)

リストページ 15



編集フォーマットに関するリスト設定 3  
(2/2)

リストページ 16



編集フォーマットに関するリスト設定 4  
(1/2)

リストページ 17



編集フォーマットに関するリスト設定 4  
(2/2)

リストページ 18



編集フォーマットに関するリスト設定 5  
(1/2)

リストページ 19



編集フォーマットに関するリスト設定 5  
(2/2)

リストページ 20



## ワンスキャンセットアップバーコードの作成

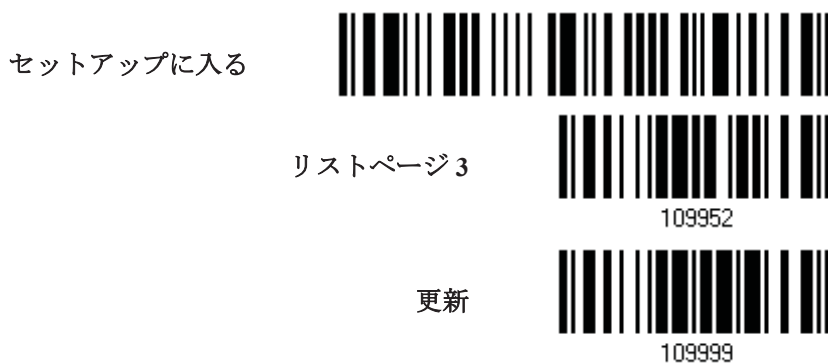
スキャナーの設定を容易にするために、ワンスキャンセットアップバーコードを作成して使用することができます。

### 1D ワンスキャンバーコード

T ワンスキャンセットアップバーコードの要件:

- ▶ 「#@」文字のプリフィックス
- ▶ 6桁のコマンドパラメータ
- ▶ 「#」文字のプリフィックス

1) 例えば、コマンドパラメータ「109952」を有効にするには、セットアップバーコードを3回スキャナーに読み取らせる必要があります。



しかし、以下のように1回の読み取りだけで可能となります



注記: ワンスキャンセットアップバーコードを読み取ると、スキャナーは自動的に再起動します。スキャナーで長いビープ音が鳴り、LEDが短くON-OFFを繰り返します。



### 2D ワンスキャンバーコード

ユーザーは一連のシリアルコマンドを連結して単一の 2D バーコードを作成し、それをスキャンすることで設定することが出来ます。例えば、サフィックス文字を「#」に変更したい場合、次のように順番にシリアルコマンドを入力します。#@CipherLab101231109902109903109994

サフィックスを設定するための 2D ワンスキャンセットアップバーコード



コマンド	目的
#@CipherLab	セットアップに入る
101231	▶ サフィックスの設定
109902	0x23 の最初の 16 進数の 1 桁を与えます
109903	▶ サフィックスとして「#」を取ることで、0x23 の 2 番目の 16 進数の 1 桁を与えます
109994	設定を確認する







## バーコードスキャナーを使う

---

### 本章の目次

---

1.1	電源 ON .....	16
1.2	転送バッファ .....	16
1.3	LED .....	17
1.4	ビープ音 .....	18
1.5	“NR”(Not READ)をホストに転送 .....	20
1.6	スキャンモード .....	21
1.7	スキャンタイムアウト .....	25
1.8	再読み取り間隔 .....	26
1.9	読み取り冗長性(1D) .....	27
1.10	UPC/EAN のアドオンセキュリティー .....	28
1.11	オートセンスモード .....	29
1.12	ケーブル自動判別 .....	30
1.13	ピックリストモード .....	31
1.14	携帯電話/ディスプレイモード .....	31



## 1.1 電源 ON

インターフェースケーブルを PC に接続。

- ▶ RS-232 ケーブルの場合は電源ケーブルも接続します。
- ▶ スキャナーが 1 回長いビープ音(高音)を発し LED が赤く点灯しすぐに消灯します。
- ▶
- ▶

## 1.2 転送バッファ

スキャナーは読み取ったデータを転送バッファ(SRAM)経由でホストコンピューターに1つずつ転送します。正しく読み取ったときスキャナーは 1 回短くビープ音(高音)で応答し、LED は緑色に点灯しすぐに消灯します。しかし、例えばポーレートが低い、あるいはハンドシェイクでデータを待っている時などはデータを直ちに受信できない場合があります。そのような場合、スキャナーは10KB の転送バッファにデータを蓄積します。バッファがフルになったときはスキャナーは長いビープ音(低音)と LED が短く点灯して警告を発します。

注記: 10KB の転送バッファには、例えば EAN-13 データであれば640個のデータを蓄積できます。ただし、RS-232 ケーブルの電源が外されたとき、あるいは他のインターフェースケーブルが外されたとき蓄積されたデータは消去されます。



## 1.3 LED インジケーター

スキャナー上部の三色 LED は、ユーザーフィードバックを示します。例えば、電源が ON になったり転送バッファが空になったりすると直ちに、LED は緑色に点灯して消えます。ピープ音の違いを見分けることができます。スキャナーの電源が ON になっているとき高音の長いピープ音を返し、転送バッファがフルになると低音の長いピープ音を返します。

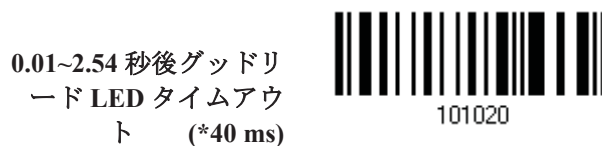
LED		意味
赤色、点灯のち 消灯	---	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 電源 ON, 長い高音ピープ音、LED1 秒間点灯</li> <li>▶ 転送バッファフル、低音の短いピープ音</li> <li>▶ RS-232/USB Virtual COM 接続失敗, 高音-低音ピープ音</li> </ul>
---	緑色、点灯のち 消灯	グッドリード, 高音ピープ音、ピッチと時間は設定可
赤色、点滅	---	設定モード (On/Off 比 0.5 s: 0.5 s)

### 1.3.1 グッドリード LED



### 1.3.2 グッドリード LED 持続時間

デフォルトで、グッドリード LED は 40 ミリ秒間 ON になっています。10 ミリ秒の単位で、1~254 の値を指定します。



- 2) 上のバーコードを読み取って、グッドリード LED が OFF になるまでの時間を指定します。
- 3) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、LED で「1」と「5」を読み取ると、150 ミリ秒後に OFF になります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



更新

## 1.4 ビープ音

ビープ音	意味
1回の長いビープ音、高音	電源 ON、LED が赤で ON(1 秒間)、その後すぐに OFF
1回の短いビープ音、高音 ▶ プログラム可能、デフォルトは 4 KHz	グッドリード、LED が緑色に短く ON-OFF
6回の短いビープ音 ▶ 高-低音を 3 回繰り返し	▶ 設定モードに入ります、LED が赤色に点滅 ▶ 設定モードを終了します
2回ビープ音、低-高音	セットアップバーコードが正常に読み取られました
2回ビープ音、高-低音	▶ RS232/USB Virtual Com 接続失敗（データはバッファメモリに蓄積）赤色 LED が短く ON-OFF。
1回の短いビープ音、高音	さらに多くの設定バーコード読み取りが必要です、
1回の短いビープ音、低音	▶ マルチバーコードエディタの「出力シーケンス」要件を完了するにはさらに多くのバーコード読み取りが必要です、LED が緑色に短く ON-OFF (完了時は、Good Read と同じ)
1回の長いビープ音、低音	▶ 送信バッファがフル、LED が赤色に短く ON-OFF ▶ 設定エラー（間違えた設定バーコードを読み込んだ）
2回の長いビープ音、高-低音	マルチバーコードモード: バッファがフル

### 1.4.1 ビープ音量

消音



101009

最小音量



101010

中間音量



101011

\*最大音量



101012



1.4.2 グッドリードビープ音

周波数

8 kHz	
	101001
*4 kHz	
	101002
2 kHz	
	101003
1 kHz	
	101004

時間

*最短	
	101005
短	
	101006
長	
	101007
最長	
	101008



## 1.5 “NR”(NOT READ)をホストに転送

出力インターフェースでキーボードウェッジまたは RS-232 が選択されているときのみ、この機能は有効です。

有効



\*無効



## 1.6 スキャンモード

▶ マルチバーコードモードの時以外、スキャナーは最大 7KB のデータまで格納できます。

スキャンモード	スキャンの開始				スキャンの終了			
	常にデ コードす る	トリガー を 1 回 押す	トリガー を保留 する	トリガー を 2 回 押す	トリガー を解除 する	トリガー を 1 回 押す	バーコ ードが読 み込ま れる	タイムア ウト
レーザーモード			✓		✓		✓	✓
自動 OFF モード		✓					✓	✓
自動電源 OFF モード:		✓						✓
エイミングモード				✓			✓	✓
マルチバーコードモード			✓		✓			
プレゼンテーションモード	✓							

注記: デフォルトはレーザーモードです



### 1.6.1 レーザーモード

トリガーを押し下げると、スキャナーはスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは(1) バーコードがデコードされる、(2) 前もって設定されたタイムアウト時間が経過する、または(3) トリガーを離すときです。

注記:「[スキャンタイムアウト](#)」を参照.

\*レーザーモード



100206

### 1.6.2 自動 OFF モード

トリガーを押すと、スキャナーはスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは、(1) バーコードがデコードされる、および(2) 前もって設定されたタイムアウト時間が経過したときです。

注記: 「[スキャンタイムアウト](#)」を参照してください。

自動 OFF モード



100200

### 1.6.3 自動電源 OFF モード

トリガーを押すと、スキャナーはスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは、前もって設定されたタイムアウト時間が経過した、またデコードが成功するたびに前もって設定されたタイムアウト時間が再カウントされるときです。

注記: 「[再読み取り間の間隔](#)」および「[スキャンタイムアウト](#)」を参照してください。

自動電源 OFF モード



100202





### 1.6.4 エイミングモード

トリガーが押されるとスキャナーはバーコードに照準を合わせ、それから 1 秒以内にトリガーが押されるとスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは、(1) バーコードがデコードされる、および(2) 前もって設定されたタイムアウト時間が経過したときです。

エイミングモード



100208

#### エイミングタイムアウト

エイミング時間を 1～15 秒に設定できます。デフォルトで、スキャナーのタイムアウトは 1 秒に設定されています。

エイミングタイムアウト (\*1)



100226

1. 上のバーコードを読み取って、エイミングが終わるまでの時間を指定します。(デフォルトでは、1 秒に設定されています。)
2. ページで「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは 10 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 1.6.5 マルチバーコードモード

- ▶ トリガーを押し下げている間スキャナーはスキャンし続け、一度に 1 つのユニークなバーコードだけでなく、複数のユニークバーコードもデコード可能です。一連のユニークなバーコードをデコードしている間、同一のバーコードが 2 回デコードされると、2 回目のデコードは無視されます。
- ▶ 複数のユニークなバーコードをデコードする場合、最大容量は 10 KB です。データ量が 10 KB を超えると、マルチバーコードモードは無効になります
- ▶ トリガーを離すまで、スキャンは停止しません。

マルチバーコードモード



100209

注記: マルチバーコードモードは「[マルチバーコード編集](#)」と関係がありません



更新

## 1.6.6 プレゼンテーションモード

バーコードがスキャン領域内に入ると、スキャナーはバーコードをデコードします。ハンズフリー操作の場合、バーコードをオートセンススタンドに置くことをお勧めします。

プレゼンテーション  
モード



### 低照明下での読取り向上

これを有効にすると低照明下での読み取りを向上することができます。

有効



\*無効



## 1.7 スキャンタイムアウト

スキャンモードが次のいずれかのモードに設定されているとき、スキャン時間(1~254 秒、0= 無効)を指定します -

- ▶ レーザーモード
- ▶ 自動 OFF モード
- ▶ 自動電源 OFF モード
- ▶ エイミングモード

0~254 秒後スキャナ  
タイムアウト (\*10)



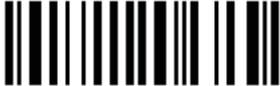







- 1) 上のバーコードを読み取って、スキャンエンジンがタイムアウトになるまでの時間を指定します。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「5」を読み取ると、スキャナーは 15 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 1.8 再読み取り間の間隔

- ▶ これは「ブロッキングタイム」とも呼ばれ、スキャンモードが次のいずれかに設定されているとき、スキャナーが同じバーコードを間違っ2回読み取るのを防ぐために使用されます。
- ▶ 自動電源 OFF モード:
- ▶ プレゼンテーションモード

100 ms	
200 ms	
*400 ms	
800 ms	
1 sec	
2 sec	
3 sec	
5 sec	



## 1.9 読み取り冗長性(1D)

「冗長性なし」が選択されている場合、デコードが 1 回成功すると読み取りが有効になります。

「2 回」を選択すると、同一のバーコードを 3 回読み取り成功する必要があります。読み取りセキュリティが高いほど(つまり、ユーザーが選択する冗長性が高いほど)、読み取り速度は遅くなります。

選択する冗長性が高いほど、読み取りセキュリティは高くなり、それ故、読み取り速度が遅くなるというのは明らかです。読み取りセキュリティとデコード速度の妥協点を見つける必要があります。



## 1.10 UPC/EAN のアドオンセキュリティ

アドオンの有無を問わず、UPC/EAN バーコードをデコードできます。読み取り冗長性(2~16回、デフォルトは10に設定)により、転送前にUPC/EANバーコードをデコードする回数を変更できます。選択する冗長性が高いほど、読み取りセキュリティは高くなり、それ故、読み取り速度が遅くなります。読み取りセキュリティとデコード速度の妥協点を見つける必要があります。

注記: この設定を有効にするには、UPC/EAN アドオン 2 と アドオン 5 を個別に有効にする必要があります。

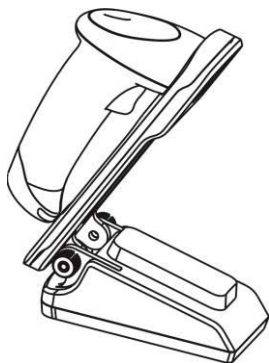
アドオンセキュリティ  
レベル (\*2~30)



- 1) 上のバーコードを読み取って UPC/EAN バーコードの読み取り冗長性を指定してください。
- 2) 「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「2」を読み取ると、スキャナーは 12 回バーコードを再び読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります



## 1.11 オートセンスモード



オートセンスモードはスキャナーが [レーザーモード](#) の時のみ有効です。スキャナーはオートセンススタンドにセットされている時バーコード読み取り待機状態になります。スキャン領域内にバーコードが入ってくると、そのバーコードを読み取ります。このモードを終了する場合はスタンドからスキャナーを取り外します。

\*有効



無効



## 1.12 ケーブル自動判別

同梱のインターフェースケーブルをスキャナーに接続するとスキャナーはそのインターフェースを自動で判別します。

Cable 自動判別	デフォルト
キーボードウエッジ	キーボードタイプ PCAT (US)
RS-232	115200 bps, 8 bits, No parity, 1 stop bit
USB	キーボードタイプ USB HID および PCAT (US)

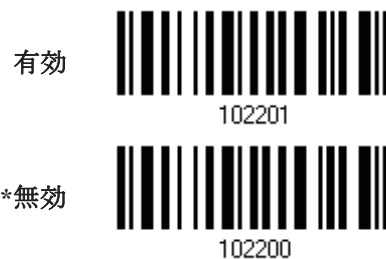
注記: “USB Virtual COM” が必要な場合は該当する設定バーコードを読む必要があります。





### 1.13 ピックリストモード

ピックリストモードは、レーザー照準パターンの中心のバーコードを読み取るモードです。



### 1.14 携帯電話/ディスプレイモード

デフォルトで、このモードは無効になっています。有効に設定すると携帯電話や電子ディスプレイに表示されたバーコードの読み取りが大幅に改善されています。





## インターフェースの選択

1) スキャナーとPCを付属のインターフェースケーブルで接続すると、スキャナーはインターフェースの種類を自動判別します。

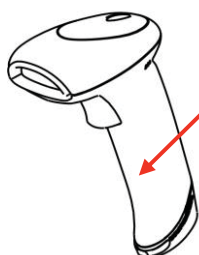
- ▶ RS-232 ケーブルの場合は電源に接続して下さい。
- ▶ USB cable の場合、デフォルトでは USB HID に設定されています。

“USB Virtual COM”を望まれる場合はセットアップバーコードを読み取って下さい。

ケーブル自動判別	デフォルト
キーボードウエッジ	キーボードタイプ PCAT (US)
RS-232	115200 bps, 8 bits, No parity, 1 stop bit
USB	キーボードタイプ USB HID および PCAT (US)

注記: ケーブルに “Cable Detection Supported” というラベルが貼られていることを確認下さい。

- 2) まず“Enter Setup セットアップに入る”バーコードを読み込みます。
- 3) 該当するインターフェースの設定バーコードを読み込みます。
- 4) 引き続き関連する設定バーコードを読み込みます。
- 5) 最後に “Update 更新”バーコードを読み込んで設定を終了します。
- 6) 注記: “Enter Setup セットアップに入る”、“Update 更新”バーコードは各ページの下端に交互に印刷されています。



インターフェースケーブルを外す場合は、裏面の小さな穴に適当なピンを強く刺し込んで、ケーブルを引き抜きます。

7)

### 本章の目次

2.1 キーボードウエッジ .....	34
2.2 RS-232 .....	46
2.3 USB HID .....	51
2.4 USB VCOM .....	61
2.5 USB VCOM_CDC.....	63



## 2.1 キーボードウェッジ

Y ケーブルスキャナーを PC のキーボード入力端子に接続。スキャンされたデータはキーボードから入力されたデータと同様にホストに転送されます。

キーボードウェッジの設定	デフォルト
キーボードタイプ	PCAT (US)
アルファベットレイアウト	通常
数字レイアウト	通常
キャップスロックタイプ	通常
キャップスロック状態	OFF
アルファベット転送	大文字と小文字を区別する
数字転送	テンキー
漢字転送	無効
Alt キー	なし
ノート PC のサポート	無効
キャラクター間転送間隔	0 (ms)
ファンクションコード間転送間隔	0 (ms)



### 2.1.1 キーボードウェッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択する

キーボードウェッジインターフェースがアクティブになっている場合、キーボードタイプを選択してこの設定を終了する必要があります

キーボードウェッジを  
アクティブにし、キー  
ボードタイプを選択す  
る....



- 1)上のバーコードを読み取って、キーボードウェッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択します。
  - 2)「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。目的のキーボードタイプの番号については、以下の表を参照してください。
- この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります

#### キーボードタイプ

デフォルトで、キーボードタイプは PCAT (US)に設定されています。次のキーボードタイプがサポートされます

番号	キーボードタイプ	番号	キーボードタイプ
1	PCAT (US)	18	PS55 001-3
2	PCAT (フランス語)	19	PS55 001-8A
3	PCAT (ドイツ語)	20	PS55 002-1, 003-1
4	PCAT (イタリア語)	21	PS55 002-81, 003-81
5	PCAT (スウェーデン語)	22	PS55 002-2, 003-2
6	PCAT (ノルウェー語)	23	PS55 002-82, 003-82
7	PCAT (UK)	24	PS55 002-3, 003-3
8	PCAT (ベルギー)	25	PS55 002-8A, 003-8A
9	PCAT (スペイン語)	26	IBM 3477 Type 4 (日本語)
10	PCAT (ポルトガル語)	27	PS2-30
11	PS55 A01-1	28	IBM 34XX/319X, Memorex Telex 122 キー
12	PS55 A01-2 (日本語)	29	ユーザー定義の表
13	PS55 A01-3	30	PCAT (トルコ語)
14	PS55 001-1	31	PCAT (ハンガリー語)



15	PS55 001-81	32	PCAT (スイスドイツ語)
16	PS55 001-2	33	PCAT (オランダ語)
17	PS55 001-82		





## 2.1.2 キーボード設定

- ▶ アルファベットレイアウト
- ▶ 数字レイアウト
- ▶ キャップスロックタイプ
- ▶ キャップスロック設定
- ▶ アルファベット転送
- ▶ 数字転送
- ▶ 漢字転送
- ▶ ALT キー
- ▶ ノート PC のサポート

### アルファベットレイアウト

デフォルトで、アルファベットレイアウトは通常モードに設定されており、標準の英語レイアウトとしても知られています。必要に応じて、フランス語またはドイツ語キーボードを選択してください。A、Q、W、Z、Y、M の文字を転送しているとき、スキャナーはこの設定に従って調整を行います。




---

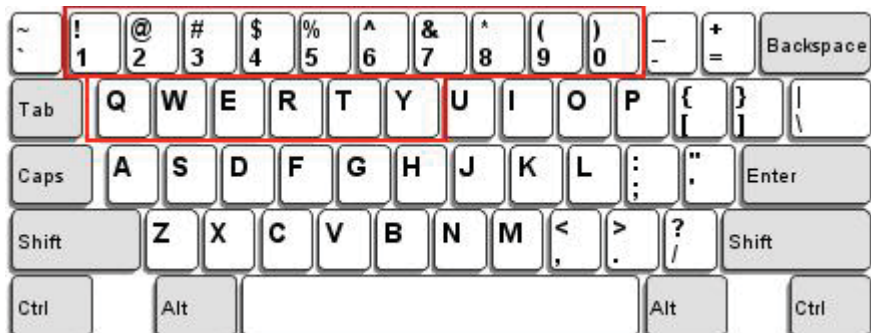
注記: 選択したキーボードタイプが PCAT (US)などの US キーボードのときのみ、この設定は機能します。アルファベットレイアウトと数字レイアウト設定は、キーボードと適合する必要があります。

---



### US Keyboard Style – ノーマル

QWERTY レイアウト。一般的に西洋諸国で使用されています。



- ▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。

### French Keyboard Style – AZERTY



- ▶ 下方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「上方の段」を選択します。





## German Keyboard Layout – QWERTZ



- ▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。



### 数字レイアウト

アルファベットレイアウトに適合する適切なレイアウトを選択してください。スキャナーは、この設定に従って調整を行います。

オプション	説明
通常	[シフト]キーまたは[シフトロック]設定次第
下方の段	QWERTY または QWERTZ キーボードの場合
上方の段	AZERTY キーボードの場合

\*ノーマル



上方の段



下方の段



注記: この設定は、特定のキーボードタイプ(言語)のサポートが使用できないが必須であるとき、アルファベットレイアウト、たぶん文字置換設定と共に使用することを意図されたものです



### キャップスロックタイプと設定

正しい大文字・小文字でアルファベットを転送するには、スキャナーがキーボードのキャップスロックのステータスを知る必要があります。設定を間違えると、転送されるアルファベットの大きさ・小文字が反対になります

キャップスロックタイプ	説明
ノーマル	通常タイプ
キャップスロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。しかし、これは句読点キーの数字に影響を与えません。
シフトロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。さらに、これは数字または句読点キーに影響を与えます。

\*ノーマル



100042

シフトロック



100045

キャップスロック



100044

キャップスロック状態	説明
キャップスロック OFF	(アルファベット転送で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャップスロックのステータスが OFF であるとする、転送された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。
キャップスロック ON	(アルファベット転送で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャップスロックのステータスが ON であるとする、転送された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。 ▶ 上のキャップスロックタイプを参照してください。
自動検出	(アルファベット転送で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)スキャナーはデータが転送される前のキーボードのキャップスロックのステータスを自動的に検出し、転送された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。

自動検出



100054

キャップスロック ON



100053

\*キャップスロック  
OFF

100052



更新

### アルファベット転送

デフォルトで、アルファベット転送は大文字と小文字を区別します。つまり、アルファベットは元の大文字・小文字、キーボードのキャップロックのステータス、およびキャップロック設定に従って転送されます。キーボードのキャプチャ1ロックのステータスのみに従ってアルファベットを転送するには、[大文字小文字を区別しない]を選択します。

大文字小文字を無視



100051

\*大文字と小文字を区別する



100050

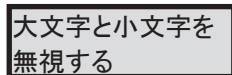
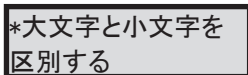


Abcd

1. 出力フォーマットのアルファベットを区別する

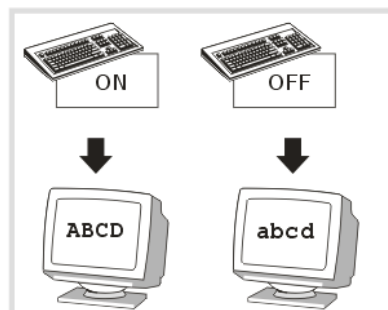
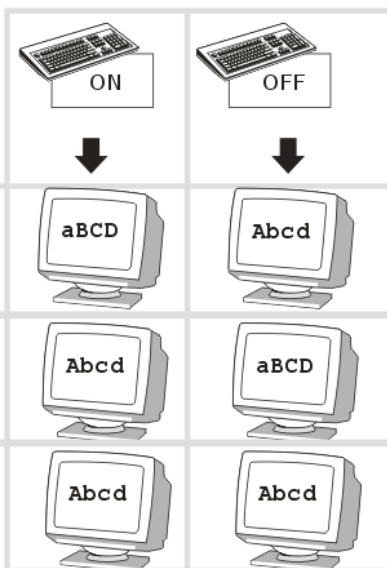


2. キーボードウエッジと HID アルファベット転送



3a. キャップロック ON/OFF チェック

3b. キャップロック ON/OFF チェック



## 数字転送

デフォルトで、英数字キーパッドは数字の転送に使用されます。テンキーを使用したい場合、「テンキー」を選択します。

テンキー



100041

\*英数字キー



100040



注記: 「テンキー」を選択すると、物理的キーボードの数値ロックステータスは「ON」になっている必要があります。



## 漢字転送

漢字転送は Bluetooth HID、キーボードウェッジまたは USB HID のいずれかが出力インターフェースに対して選択されているとき、スキャナーによりサポートされます。漢字転送により、ホストコンピュータが日本語の Windows O.S.を実行しているとき、スキャナーは現在の日本語の表記法で使用する中国文字を含め、日本語の文字を転送することができます。

デフォルトで、漢字転送は無効になっています。次のバーコードを読み取ることで、スキャナーの漢字転送を有効/無効にします



## ALT キー

デフォルトで、ALT キーは無効になっています。特定のキーボード文字の代替キーコードをエミュレートするのを許可するには、[はい]を選択します。例えば、[Alt] + [065]は使用しているキーボードタイプにかかわらず、A の文字をホストに転送します。



## ノート PC のサポート

デフォルトで、ノート PC のサポートは無効になっています。相互連結される外部キーボードのないノート PC にウェッジケーブルを接続する場合、この機能を有効にすることを推奨します。



### 2.1.3 キャラクター間転送間隔

デフォルトで、キャラクター間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべての文字間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

キャラクター間転送間  
隔... (\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、キャラクター間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のキャラクター間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 2.1.4 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべてのファンクションコード(0x01 ~ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

ファンクションコード  
間転送間隔(\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 2.1.5 特殊キーボード

特殊キーボードを適用するか、バイパスするか設定して下さい。

\*適用



バイパス



更新

## 2.2 RS-232

RS-232 ケーブルを使用して PC のシリアルポートに接続し、電源供給コードを差し込みます。関連する RS-232 パラメータは、コンピュータで設定されたパラメータに適合する必要があります。コンピュータで HyperTerminal.exe を実行すると、スキャンされたデータはコンピュータのシリアルポートに転送されます。

RS-232 設定	デフォルト
ボーレート、データビット、パリティ、ストップビット	115200 bps、8ビット、パリティなし、1 ストップビット
フロー制御	なし
キャラクター間転送間隔	0 (ms)
ファンクションコード間転送間隔	0 (ms)
ACK/NAK タイムアウト	0
ACK/NAK ビープ音	無効

### 2.2.1 RS-232 インターフェースをアクティブにする

RS-232 インターフェースをアクティブにする



### 2.2.2 ボーレート

\*115200 bps



57600 bps



38400 bps



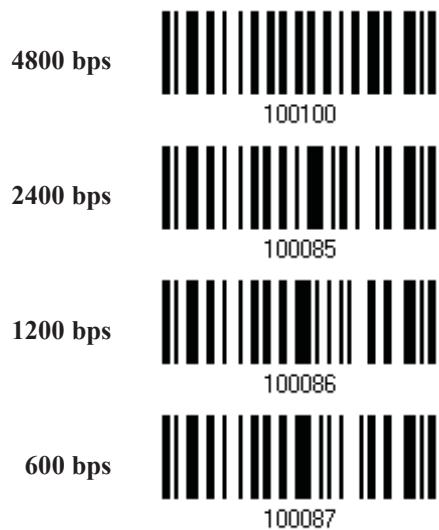
19200 bps



9600 bps







### 2.2.3 データビット



### 2.2.4 パリティ



## 2.2.5 ストップビット

2 stop bits



\*1 stop bit



## 2.2.6 フロー制御

デフォルトではフロー制御無しです。

オプション	説明
なし	フロー制御なし
スキャナーレディ	電源が ON になると、スキャナーは RTS 信号をアクティブにします。それぞれの Good Read (グッドリード) の後、スキャナーは CTS 信号がアクティブになるのを待ちます。CTS 信号がアクティブになるまで、データは転送されません。
データレディ	それぞれの Good Read の後、RTS 信号がアクティブにされます。スキャナーは CTS 信号がアクティブになるのを待ちます。CTS 信号がアクティブになるまで、データは転送されません。
反転したデータレディ	RTS 信号レベルが反転していることを除き、データレディフロー制御と同じように機能します。

\*なし



スキャナーレディ



データレディ



データレディの反転



### 2.2.7 キャラクター間転送間隔

デフォルトで、キャラクター間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべての文字間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

キャラクター間転送間  
隔... (\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、キャラクター間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のキャラクター間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 2.2.8 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべてのファンクションコード(0x01 ~ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

ファンクションコード  
間転送間隔(\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 2.2.9 ACK/NAK タイムアウト

デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに転送した後にさらに多くのデータを転送します。0.1 秒の単位で、1~99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの転送をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。

(\*0~99)後の ACK/NAK  
タイムアウト



- 1) 上のバーコードを読み、スキャナーがデータを転送しホストからの応答を待つ時間を指定します。
- 2) 「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは 1 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



更新

ACK/NAK エラービープ音

---

有効



100015

\*無効



100014



## 2.3 USB HID

USB HID の場合、USB ケーブルを使用してスキャナーを PC の USB ポートに接続します。コンピュータでテキストエディタを実行すると、スキャンされたデータはコンピュータに転送されます。

HID 設定	デフォルト
キーボードタイプ	PCAT (US)
数字レイアウト	通常
キャップスロックタイプ	通常
キャップスロック状態	OFF
アルファベット転送	大文字と小文字を区別する
数字転送	英数字キーパッド
漢字転送	無効
キャラクター間転送間隔	0 (ms)
ファンクションコード間転送間隔	0 (ms)

### 2.3.1 USB HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択する

USB HID インターフェースがアクティブの時、キーボードタイプを選択してこの設定を終了する必要があります。

USB HID をアクティブ  
にし、キーボードタイ  
プを選択する



- 1) 上のバーコードを読み取って、USB HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択します。
- 2) 「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。目的のキーボードタイプの番号については、次ページの表を参照してください。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



**USB HID**

デフォルトで、キーボードタイプは PCAT (US) に設定されています。次のキーボードタイプがサポートされています。

番号	キーボードタイプ	番号	キーボードタイプ
64	PCAT (US)	72	PCAT (スペイン語)
65	PCAT (フランス語)	73	PCAT (ポルトガル語)
66	PCAT (ドイツ語)	74	PS55 A01-2 (日本語)
67	PCAT (イタリア語)	75	ユーザー定義の表
68	PCAT (スウェーデン語)	76	PCAT (トルコ語)
69	PCAT (ノルウェー語)	77	PCAT (ハンガリー語)
70	PCAT (UK)	78	PCAT (スイスドイツ語)
71	PCAT (Belgium)	79	PCAT (Danish)



## 2.3.2 キーボード設定

- ▶ アルファベットレイアウト
- ▶ 数字レイアウト
- ▶ キャップスロックタイプ
- ▶ キャップスロック設定
- ▶ アルファベット転送
- ▶ 数字転送
- ▶ 漢字転送

### アルファベットレイアウト

デフォルトで、アルファベットレイアウトは通常モードに設定されており、標準の英語レイアウトとしても知られています。必要に応じて、フランス語またはドイツ語キーボードを選択してください。A、Q、W、Z、Y、M の文字を転送しているとき、スキャナーはこの設定に従って調整を行います。

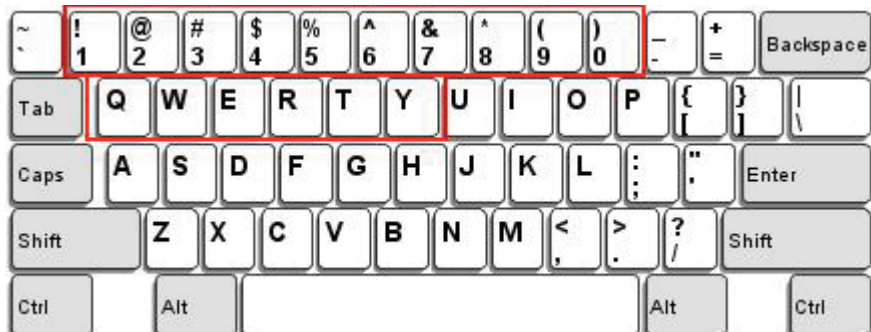


注記: 選択したキーボードタイプが PCAT (US)などの US キーボードのときのみ、この設定は機能します。アルファベットレイアウトと数字レイアウト設定は、キーボードと適合する必要があります。



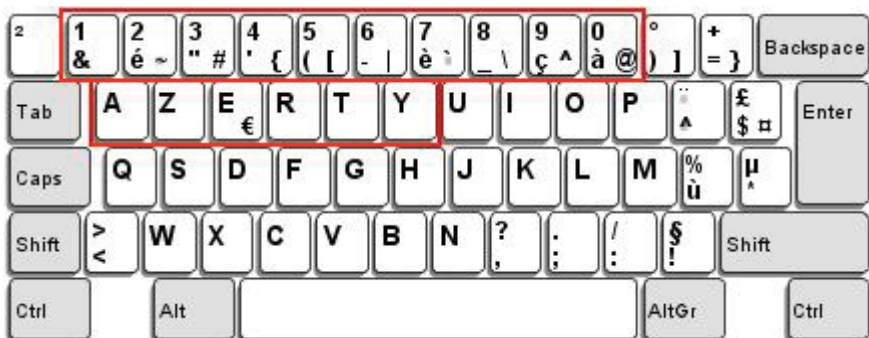
### US Keyboard Style -ノーマル

QWERTY レイアウト。一般的に西洋諸国で使用されています。



- ▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。

### French Keyboard Style - AZERTY



F

- ▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。

### German Keyboard Layout - QWERTZ



- ▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。





## 数字レイアウト

アルファベットレイアウトに適合する適切なレイアウトを選択してください。スキャナーは、この設定に従って調整を行います。

オプション	説明
通常	[シフト]キーまたは[シフトロック]設定次第
下方の段	QWERTY または QWERTZ キーボードの場合
上方の段	AZERTY キーボードの場合

\*ノーマル



100046

上方の段



100049

下方の段



100048

注記: この設定は、特定のキーボードタイプ(言語)のサポートが使用できないが必須であるとき、文字置換設定と共に使用されます。

## キャップスロックタイプと設定

正しい大文字・小文字でアルファベットを転送するには、スキャナーがキーボードのキャップスロックのステータスを知る必要があります。設定を間違えると、転送されるアルファベットの大文字・小文字が反対になります。

キャップロックタイプ	説明
ノーマル	ノーマルタイプ
キャップスロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。しかし、これは句読点キーの数字に影響を与えません。
シフトロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。さらに、これは数字または句読点キーに影響を与えます。

\*ノーマル



100042



更新

シフトロック



キャップスロック



キャップスロック状態	説明
キャップスロック OFF	(アルファベット転送で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャップスロックのステータスが OFF であるとする、転送された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。
キャップスロック ON	(アルファベット転送で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャップスロックのステータスが ON であるとする、転送された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。 ▶ 上のキャップスロックタイプを参照してください。
自動検出	(アルファベット転送で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)スキャナーはデータが転送される前のキーボードのキャップスロックのステータスを自動的に検出し、転送された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。

自動検出



キャップスロック ON



\*キャップスロック OFF



### アルファベット転送

デフォルトで、アルファベット転送は大文字と小文字を区別します。つまり、アルファベットは元の大文字・小文字、キーボードのキャップスロックのステータス、およびキャップスロック設定に従って転送されます。キーボードのキャプチャ 1 ロックのステータスのみに従ってアルファベットを転送するには、[大文字小文字を区別しない]を選択します。

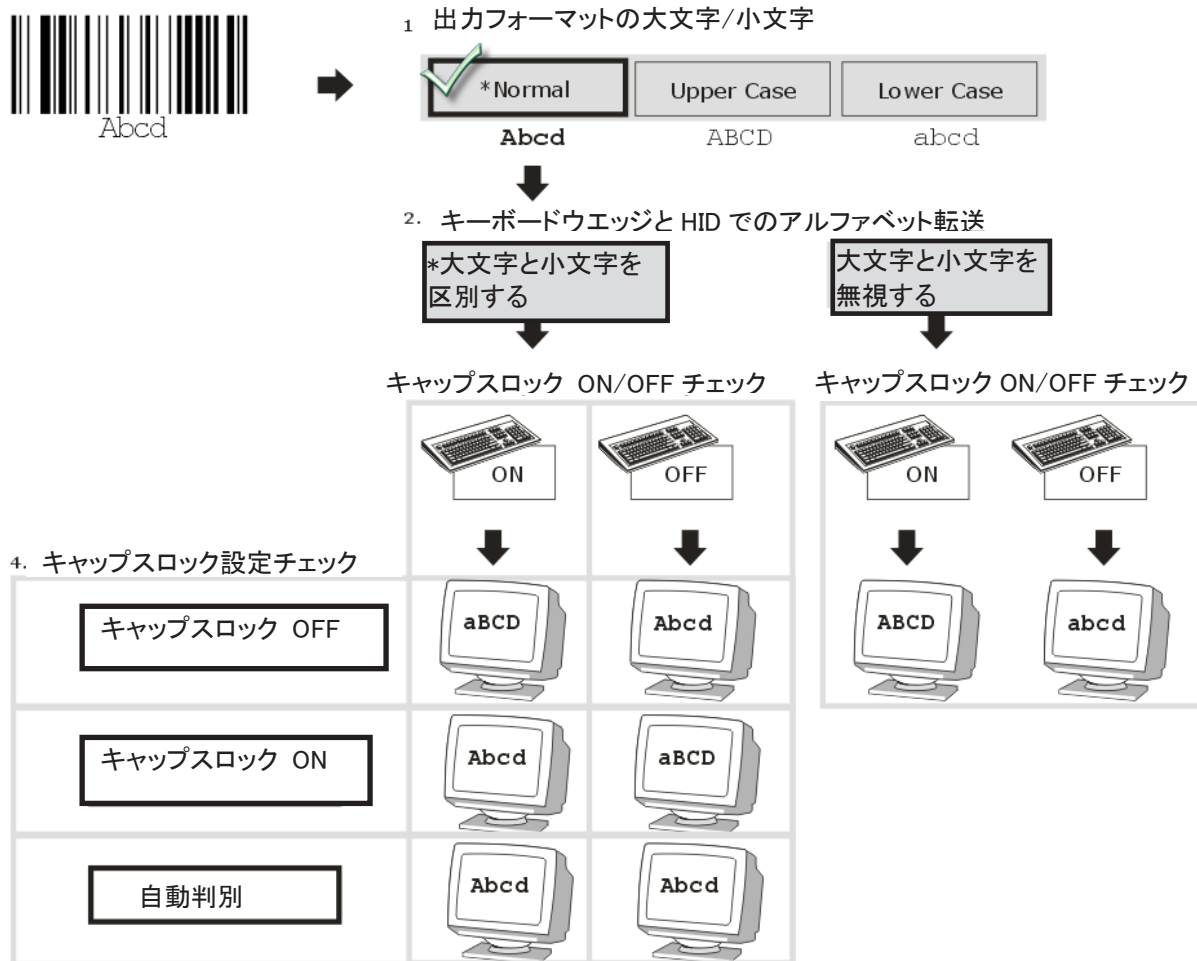
大文字小文字を無視



\*大文字と小文字を区別する



セットアップに入る



### 数字転送

デフォルトで、英数字キーパッドは数字の転送に使用されます。テンキーを使用したい場合、「テンキー」を選択します。



注記: 「テンキー」を選択すると、物理的キーボードの数値ロックステータスは「ON」になっている必要があります。

### 漢字転送

漢字転送は Bluetooth HID、3656 を介したキーボードウェッジまたは 3656 を介した USB HID のいずれかが出力インターフェースに対して選択されているとき、スキャナーによりサポートされます。漢字転送により、ホストコンピュータが日本語の Windows O.S. を実行しているとき、スキャナーは現在の日本語の表記法で使用される中国文字を含め、日本語の文字を転送することができます。

デフォルトで、漢字転送は無効になっています。次のバーコードを読み取ることで、スキャナーの漢字転送を有効/無効にする



### 2.3.3 キャラクター間転送間隔

デフォルトで、キャラクター間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべての文字間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

キャラクター間転送間  
隔... (\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、キャラクター間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のキャラクター間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 2.3.4 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべてのファンクションコード(0x01 ~0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

ファンクションコード  
間転送間隔 (\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



### 2.3.5 HID 文字転送モード

デフォルトで、HID インターフェースはホストヘデータをバッチ単位で転送します。スキャナーに「文字単位で」バーコードを読み取らせ、一度に 1 文字ずつデータを処理することができます。

\*バッチ処理



1 文字ごと



### 2.3.6 特殊キー

デフォルトで、このインターフェースはキーボードウェッジ表で定義されたファンクションコード(0x01~0x1F)を採用しています。しかし、データエラーを避けるためにバーコード内部でこれらのファンクションコードを取り除く必要があるかもしれません。特殊キーを適用するかどうかを決定できます。

\*適用



バイパス



## 2.4 USB VIRTUAL COM

USB ケーブルを使用してスキャナーを PC の USB ポートに接続します。コンピュータで HyperTerminal.exe を実行すると、スキャンされたデータはコンピュータに転送されます。

注記: 初めて USB Virtual COM を使用する場合、前もってそのドライバをインストールする必要があります。バージョン 5.4 以降のドライバが必要です。古いバージョンを削除してください。あるいは、USB communication device class (CDC) driver を使い、Direct USB VCOM\_CDC を選択することも出来ます。参照 [2.5 USB VCOM\\_CDC](#)。

### 2.4.1 USB VIRTUAL COM をアクティブにする

USB Virtual COM を  
アクティブにする



### 2.4.2 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべてのファンクションコード(0x01~ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

ファンクションコード  
間転送間隔(\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



### 2.4.3 ACK/NAK タイムアウト

デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに転送した後にさらに多くのデータを転送します。0.1 秒の単位で、1～99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの転送をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。

(\*0～99)後の  
ACK/NAK タイムア  
ウト



- 1) 上のバーコードを読み、スキャナーがデータを転送しホストからの応答を待つ時間を指定します。
- 2) 「10進値」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは 1 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### ACK/NAK エラービープ音

有効



\*無効



注記: ユーザーにこのようなデータ損失の通知が届きスキャナーにデータの読み取りを再び行わせることができるように、エラービープ音を有効にするようにお勧めします。





## 2.5 USB VCOM\_CDC

注記: 初めて USB Virtual COM をお使いの場合は VCOM\_CDC ドライバーを前もってインストールして下さい。

### 2.5.1 USB VCOM\_CDC をアクティブにする

Direct USB  
VCOM\_CDC をアクテ  
ィブにする



### 2.5.2 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべてのファンクションコード(0x01~0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

ファンクションコード  
間転送間隔 (\*0~254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「10 進値」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 2.5.3 ACK/NAK タイムアウト

デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに転送した後にさらに多くのデータを転送します。0.1 秒の単位で、1~99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの転送をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。

(\*0~99)後の  
ACK/NAK タイムアウ  
ト



- 4) デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに転送した後にさらに多くのデータを転送します。0.1 秒の単位で、1~99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの転送をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。



## ACK/NAK エラービープ音

---

有効



\*無効



---

注記: ユーザーにこのようなデータ損失の通知が届きスキャナーにデータの読み取りを再び行わせることができるように、エラービープ音を有効にするようにお勧めします。

---



---

## バーコードシンボルの設定

---

### 本章の目次

---

3.1	Codabar .....	66
3.2	Code 25 – Industrial 25 .....	69
3.3	Code 25 – Interleaved 25 .....	71
3.4	Code 25 – Matrix 25 .....	73
3.5	Code 39 .....	75
3.6	Code 93 .....	78
3.7	Code 128 .....	79
3.8	EAN-8 .....	80
3.9	EAN-13 .....	82
3.10	GS1-128 (EAN-128) .....	87
3.11	ISBT 128 .....	89
3.12	MSI .....	90
3.13	French Pharmacode .....	92
3.14	Italian Pharmacode .....	92
3.15	Plessey .....	93
3.16	GS1 DataBar (RSS ファミリー) .....	94
3.17	Telepen .....	99
3.18	UPC-A .....	100
3.19	UPC-E .....	102
3.20	Code 11 .....	104
3.21	2D Symbologies .....	106



### 3.1 CODABAR

\*有効



100313

無効



100312

#### 3.1.1 セキュリティーレベル

セキュリティーレベルを設定して、バーコードの印字品質による誤読を防ぎます。

\*通常



100491

高



100490

#### 3.1.2 スタート/ストップ文字の転送

転送する



100441

\*転送しない



100440



### 3.1.3 スタート/ストップパターン文字の選択

下記 4 つの組み合わせから選択 します。

* abcd/abcd	
	100436
abcd/tn*e	
	100437
ABCD/ABCD	
	100438
ABCD/TN*E	
	100439

### 3.1.4 CLSI 変換

有効になっているとき、CLSI 編集はスタート/ストップ文字を取り去り、14 文字コードバーの最初、5 番目、10 番目の文字の後にスペースを挿入します。

適用	
	100443
*適用しない	
	100442

注記: 14 文字のバーコード長に、スタート/ストップ文字は含まれません。



### 3.1.5 コード長必要条件

- ▶ 「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。
- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間に位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

\*最大/最小長(1~127)  
を有効にする



固定長を有効にする



- 2)
- 3) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。
- 4) 最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長(\*55)または固定  
長 1



最小長(\*4)または固定  
長 2



- 5) 目的の長さについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 6) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 3.2 CODE 25 – INDUSTRIAL 25

\*有効



100307

無効



100306

### 3.2.1 スタート/ストップパターンの選択

2 of 5 バーコードには変種があります。例えば航空チケットの場合 Industrial 2 of 5 バーコードですがスタート/ストップパターンは Interleaved 2 of 5 のスタート/ストップパターンを使用しています。このようなバーコードを読み取るとき "Interleaved 25"スタート/ストップパターンを選択しなければなりません。

\*Industrial 25 スタート/ストップパターン



100412

Interleaved 25 スタート/ストップパターン



100413

Matrix 25 スタート/ストップパターン



100414

### 3.2.2 チェックデジットを確認する

確認する



100425

\*確認しない



100424



更新

### 3.2.3 チェックデジットを転送する

\*転送する



転送しない



### 3.2.4 コード長必要条件

- ▶ 「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。
- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

\*最大/最小長(1-127)を  
有効にする



固定長を有効にする...



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。  
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長(\*127)または固  
定長 1



最小長(\*4)または固  
定長 2



- 3) 目的の長さについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。





### 3.3 CODE 25 – INTERLEAVED 25

\*有効



100309

無効



100308

#### 3.3.1 スタート/ストップパターンの選択

2 of 5 バーコードには変種があります。例えば航空チケットの場合 Industrial 2 of 5 バーコードですがスタート/ストップパターンは Interleaved 2 of 5 のスタート/ストップパターンを使用しています。このようなバーコードを読み取るとき "Interleaved 25"スタート/ストップパターンを選択しなければなりません。

\*Industrial 25 スタート/ストップパターン



100416

Interleaved 25 スタート/ストップパターン



100417

Matrix 25 スタート/ストップパターン



100418

#### 3.3.2 チェックデジットを確認する

チェックデジットが間違っている場合、バーコードは受け入れられません。

確認する



100429

\*確認しない



100428



更新

### 3.3.3 チェックデジットを転送する

\*転送する



転送しない



### 3.3.4 コード長必要条件

- ▶ 「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。
- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間に位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、チェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

\*最大/最小長(1~127)を  
有効にする...



固定長を有効にする



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。  
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長(\*126)または固  
定長 1



最小長(\*4)または固  
定長 2



- 3) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコード を読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。
- 5)
- 6)



### 3.4 CODE 25 - MATRIX 25

有効



100311

\*無効



100310

#### 3.4.1 スタート/ストップパターンの選択

2 of 5 バーコードには変種があります。例えば航空チケットの場合 Industrial 2 of 5 バーコードですがスタート/ストップパターンは Interleaved 2 of 5 のスタート/ストップパターンを使用しています。このようなバーコードを読み取るとき "Interleaved 25"スタート/ストップパターンを選択しなければなりません。

\*Industrial 25 スタート/ストップパターン



100420

Interleaved 25 スタート/ストップパターン



100421

Matrix 25 スタート/ストップパターン



100422

#### 3.4.2 チェックデジットの確認

確認する



100433

\*確認しない



100432



更新

### 3.4.3 チェックデジットの転送

\*転送する



転送しない



### 3.4.4 コード長必要条件

- ▶ 「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。
- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます

注記: 指定の長さには、チェックデジットを含む必要があります。

バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします

\*最大/最小長(1~127)を  
有効にする

固定長を有効にする



- 7) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。  
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長(\*127)または固  
定長 1最小長(\*4)または固  
定長 2

- 1) 目的の長さについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 2) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 3.5 CODE 39

\*有効



100301

無効



100300

## 3.5.1 スタート/ストップ文字の転送

転送する



100403

\*転送しない



100402

## 3.5.2 チェックデジットの確認

チェックデジットを確認するかどうかを決定します。間違っている場合、バーコードは受け入れられません

確認する



100405

\*確認しない



100404

## 3.5.3 チェックデジットの転送

\*転送する



100407

転送しない



100406



更新

### 3.5.4 標準/FULL ASCII CODE 39 のサポート

すべての英数字と特殊文字を含む Code 39 Full ASCII をサポートするかどうかを決定します。



### 3.5.5 セキュリティレベル

印字品質による誤読を防ぎます。



### 3.5.6 アスタリスク (\*)をデータの一部とする



### 3.5.7 コード長必要条件

- ▶ 短いスキャンエラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。
- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大2つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、チェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

\*最大/最小長(1~127)を  
有効にする



固定長を有効にする



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。
- 3) 最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長(\*55)または固定  
長 1



最小長(\*4)または固定  
長 2



- 4) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 5) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



更新

## 3.6 CODE 93

\*有効



無効



### 3.6.1 コード長必要条件

- ▶ 「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。
- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、チェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします

\*最大/最小長(1~127)を  
有効にする



固定長を有効にする...



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。
- 3) 最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します

最大長(\*55)または固定  
長 1



最小長(\*4)または固定  
長 2



- 4) 目的の長さについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 5) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。





## 3.7 CODE 128

\*有効



100317

無効



100316

### 3.7.1 セキュリティーレベル

印字品質による誤読を防ぎます。

\*ノーマル



100493

高



100492



更新

### 3.8 EAN-8

#### EAN-8

\*有効  
(No アドオン)



無効



#### EAN-8 アドオン 2

有効



\*無効



#### EAN-8 アドオン 5

有効



\*無効



#### 3.8.1 EAN-13に変換

- ▶ 変換後は EAN-13 フォーマットが適用されます(チェックデジットなど)。

変換する



\*変換しない



### 3.8.2 チェックデジットを転送する

\*転送する



転送しない



### 3.8.3 変換フォーマット

EAN-8 を EAN-13 に変換する際、デフォルトフォーマットで、あるいは GTIN-13 フォーマットで変換するか決定して下さい。

\*デフォルトフォーマット



GTIN-13 フォーマット



更新

### 3.9 EAN-13

#### EAN-13

\*有効  
(No アドオン)



無効



#### EAN-13 アドオン 2

有効



\*無効



#### EAN-13 アドオン 5

有効



\*無効



### 3.9.1 EAN-13 アドオンモード

EAN-13 414/419/434/439 アドオンモードを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、スキャンされたバーコードにアドオン 2 またはアドオン 5 サフィックスがない場合、414/419/434/439 で始まるバーコードはデコードされません。

#### EAN-13 414/419/434/439 アドオンモード

有効



101337

\*無効



101336

EAN-13 378/379 アドオンモードを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、スキャンされたバーコードにアドオン 2 またはアドオン 5 サフィックスがないとき、378/379 で始まるバーコードはデコードされません。

#### EAN-13 378/379 アドオンモード

有効



101339

\*無効



101338

EAN-13 977 アドオンモードを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、スキャンされたバーコードにアドオン 2 またはアドオン 5 サフィックスがないとき、977 で始まるバーコードはデコードされません。

#### EAN-13 977 アドオンモード

有効



101341

\*無効



101340



更新

EAN-13 978 アドオンモードを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、スキャンされたバーコードにアドオン 2 またはアドオン 5 サフィックスがないとき、978 で始まるバーコードはデコードされません。

**EAN-13 978 アドオンモード**

有効



101343

\*無効



101342

EAN-13 979 アドオンモードを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、スキャンされたバーコードにアドオン 2 またはアドオン 5 サフィックスがないとき、979 で始まるバーコードはデコードされません。

**EAN-13 979 アドオンモード**

有効



101345

\*無効



101344

EAN-13 491 アドオンモードを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、スキャンされたバーコードにアドオン 2 またはアドオン 5 サフィックスがないとき、491 で始まるバーコードはデコードされません。

**EAN-13 491 アドオンモード**

有効



101347

\*無効



101346



EAN-13 529 アドオンモードを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、スキャンされたバーコードにアドオン 2 またはアドオン 5 サフィックスがないとき、529 で始まるバーコードはデコードされません。

#### EAN-13 529 アドオン Mode

有効



101349

\*無効



101348

アドオン 2 またはアドオン 5 サフィックスのないスキャン済みバーコードをデコードしているとき、スキャナーのブザーでピープ音を 2 回鳴らすかどうかを決定します

#### EAN-13 アドオン モードブザー

有効



101335

\*無効



101334

### 3.9.2 ISBN に変換する

978 と 979 で開始する EAN-13 バーコードを ISBN に変換するかどうかを決定します。

変換する



100463

\*変換しない



100462



更新

### 3.9.3 ISSN に変換する

977 で開始する EAN-13 バーコードを ISSN に変換するかどうかを決定します。

変換する



100465

\*変換しない



100464

### 3.9.4 チェックデジットを転送する

転送されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

\*転送する



100473

転送しない



100472

### 3.9.5 セキュリティーレベル

印字品質による誤読を防ぎます。

\*ノーマル



100487

高



100486





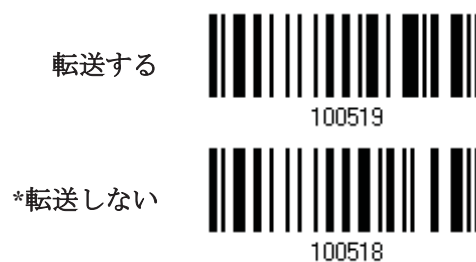
### 3.10 GS1-128 (EAN-128)



注記: GS1-128 バーコードは、設定が無効の時は Code-128 とされます。

#### 3.10.1 CODE ID を転送する

転送されるデータに Code ID (「C1」)を含めるかどうかを決定します。



#### 3.10.2 フィールド区切り文字(GS 文字)

フィールド区切り文字(FNC1 制御文字を人間が読める文字に変換する)を適用するかどうかを決定します



- 1) フィールド区切り文字を有効にするには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「16 進値」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

注記: GS1-128 バーコードは Code 128 の他の使用と混同されないように FNC1 制御文字で始まります。FNC1 は、GS1-128 バーコードのデータフィールドを区切るするためにも使用されます。



### 3.10.3 GS1 フォーマット



### 3.10.4 アプリケーション識別子

GS1 データに変換するとき、アプリケーション識別子(1文字)を左(AIMark1)または右(AIMark2) に付加するか選択します。



- 1) 上記のバーコードを読み取ります。
- 2) "" で文字を選択。もしアプリケーション識別子が必要でないときは'00'を読み込みます。
- 3) "確認"バーコードを読んで確定します。



## 3.11 ISBT 128

\*有効



無効



### 3.11.1 ISBT 連結

ISBT バーコードのペアをデコードし連結するかどうかを決定します。

▶ ISBT 連結を無効にする

発生する ISBT バーコードのペアを連結しません。

▶ ISBT 連結を有効にする

スキャナーがデコードし連結を実行するには、2つの ISBT バーコードがなければなりません。ISBT バーコードが 1 つの場合はデコードしません。

▶ ISBT 連結の自動識別

ISBT バーコードのペアを直ちにデコードして連結します。ISBT バーコードが 1 つしか存在しない場合、スキャナーはそのデータを転送する前に 10 回デコードして追加の ISBT バーコードがないことを確認します。

自動識別



有効



\*無効



更新

### 3.12 MSI

有効



\*無効



#### 3.12.1 チェックデジットを確認する

バーコードをデコードしているとき、チェックデジットを確認するために3つの計算の1つを選択します。間違っている場合、バーコードは受け入れられません。

\*シングルモジュロ 10



ダブルモジュロ 10



モジュロ 10 & 11



#### 3.12.2 チェックデジットの転送

転送されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

\*最後のデジットは転送しない



両方のデジットを転送



両方のデジットを転送しない



### 3.12.3 コード長必要条件

- ▶ 短いスキャンエラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。
- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます。

バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします

\*最大/最小長(1~127)を  
有効にする



固定長を有効にする...



4)

- 5) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。  
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長(127)を有効にする



最小長(\*4)または固定  
長 2



- 1) 目的の長さについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 2) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



更新

### 3.13 FRENCH PHARMACODE

有効



\*無効



#### 3.13.1 チェックデジットの転送

\*転送する



転送しない



### 3.14 ITALIAN PHARMACODE

有効



\*無効



#### 3.14.1 チェックデジットの転送

転送されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

\*転送する



転送しない



## 3.15 PLESSEY

有効



100347

\*無効



100346

### 3.15.1 UK PLESSEY に変換する

デコードされたデータの'A'を'X'に変換するかどうかを決定します

変換する



100447

\*変換しない



100446

### 3.15.2 チェックデジットの転送

転送されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

\*転送する



100445

転送しない



100444



更新

### 3.16 GS1 DATABAR (RSS ファミリー)

以下の 3 つのグループに分類されます:

#### Group I – GS1 DataBar Omnidirectional (RSS-14)

このグループは、右記ように構成されます

- ▶ GS1 DataBar Omnidirectional
- ▶ GS1 DataBar Truncated
- ▶ GS1 DataBar Stacked
- ▶ GS1 DataBar Stacked Omnidirectional

#### Group II – GS1 DataBar Expanded (RSS Expanded)

このグループは、右記のように構成されます:

- ▶ GS1 DataBar Expanded
- ▶ GS1 DataBar Expanded Stacked

#### Group III – GS1 DataBar Limited (RSS Limited)

このグループは、右記のように構成されます:

- ▶ GS1 DataBar Limited

#### 3.16.1 CODE ID の選択

使用する目的の Code ID を選択します:

- ▶ “]e0” (GS1 DataBar Code ID)
- ▶ “]C1” (GS1-128 Code ID)

“]C1”を使う



\* “]e0”を使う





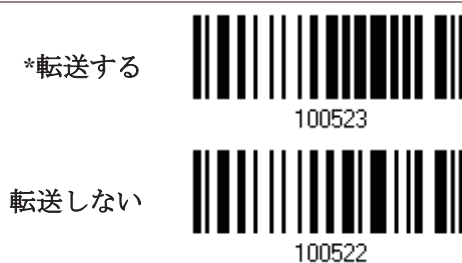
## 3.16.2 GS1 DATABAR OMNIDIRECTIONAL (RSS-14)



以下の設定はグループ1のシンボル体系のみに適用されます:

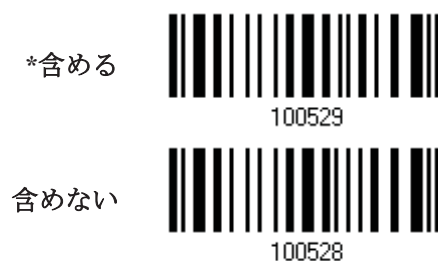
- ▶ GS1 DataBar Omnidirectional
- ▶ GS1 DataBar Truncated

## Code ID の転送



## Application ID の転送

転送するデータに Application ID ("01")を含めるかどうか決定します。..



## チェックデジットの転送



### 3.16.3 GS1 DATABAR EXPANDED (RSS EXPANDED)

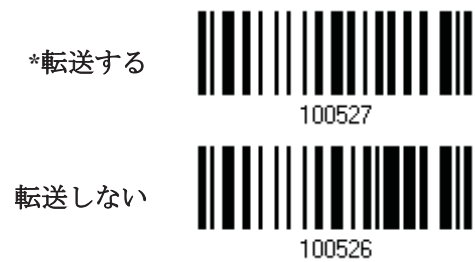


以下の設定はグループ II のシンボル体系のみに適用されます:

- ▶ GS1 DataBar Expanded

#### Code ID の転送

---



## 3.16.4 GS1 DATABAR LIMITED (RSS LIMITED)

有効  
(Group III)

\*無効



## Code ID の転送

\*転送する



転送しない



## Application ID の転送

転送されるデータに Code ID (「01」)を含めるかどうかを決定します。

\*含める



含めない



## チェックデジットの転送

\*転送する



転送しない



更新

### 3.16.5 フィールド区切り文字 (GS 文字)

フィールド区切り記号(GS 制御文字を人間が読める文字に変換する)を適用するかどうかを決定します



- 1) フィールド区切り記号を指定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

### 3.16.6 GS1 フォーマット



### 3.16.7 APPLICATION ID マーク

GS1 データをフォーマットしているとき、それにラベルを付ける目的で Application ID (AI)の左 (AIMark1)または右(AIMark2)に、Application ID マーク(1 文字長)を追加することができます。



- 1) Application ID の左(AIMark1)/右(AIMark2)にマークを追加するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字については、「[16 進値](#)」バーコード読み取ります。AI マークを削除したい場合は、「00」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



### 3.16.8 GS1 DATABAR セキュリティレベル

バーコードの印字品質による誤読を防ぎます。

\*ノーマル



高



## 3.17 TELEPEN

有効



\*無効



### 3.17.1 AIM TELEPEN のサポート

Full ASCII コードをサポートするかどうか決定します

- ▶ AIM Telepen (Full ASCII) は英数字および特殊キャラクターを含みます。

オリジナル Telepen  
(Numeric)



\*AIM Telepen



更新

### 3.18 UPC-A

#### UPC-A

\*有効  
(No アドオン)



無効



#### UPC-A アドオン 2

有効



\*無効



#### UPC-A アドオン 5

有効



\*無効



#### 3.18.1 EAN-13 へ変換

- ▶ 変換後、データは EAN-13 フォーマットに従い、EAN-13 プログラミングセレクション(例えば、チェックデジット)が適用されます。

変換する



\*変換しない



### 3.18.2 システム番号の転送

\*転送する



転送しない



### 3.18.3 チェックデジットの転送

\*転送する



転送しない



### 3.19 UPC-E

#### UPC-E

\*有効  
(No アドオン)



無効



#### UPC-E アドオン 2

有効



\*無効



#### UPC-E アドオン 5

有効



\*無効



#### 3.19.1 システムナンバーの選択

- ▶ 普通の UPC-E バーコードのみか、あるいは UPC-E0 と UPC-E1 バーコードの両方をデコードするかどうかを決定します。
- ▶ システム番号 0 UPC-E0 バーコードをデコード
- ▶ システム番号 1 UPC-E1 バーコードデコード。

システムナンバー 0 &  
1



\*システムナンバー0  
のみ





## 3.19.2 UPC-A に変換

- ▶ 変換後、データは UPC-A フォーマットに従い UPC-A プログラミングセレクション(例えば、システム番号、チェックデジット)が適用されます。

変換する



100457

\*変換しない



100456

## 3.19.3 システムナンバーの転送

転送する



100475

\*転送しない



100474

## 3.19.4 チェックデジットの転送

\*転送する



100467

転送しない



100466



更新

### 3.20 CODE 11

有効



100359

\*無効



100358

#### 3.20.1 チェックデジットの確認

確認しない



100538

2個のチェックデジット



100537

1個のチェックデジット



100536

\*自動



100535

#### 3.20.2 チェックデジットの転送

\*転送する



100542

転送しない



100541



### 3.20.3 セキュリティーレベル

印字品質による誤読を防ぎます。

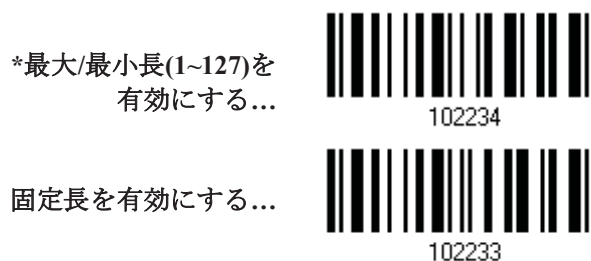


### 3.20.4 コード長必要条件

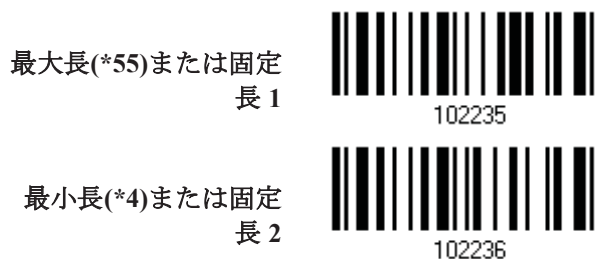
- ▶ 「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。
- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。
- 3) 最小長または固定長 2 を手順 2~4 繰り返します
- 4) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコード を読み取ります
- 5) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 3.21 2D SYMBOLOGIES

### 3.21.1 PDF417

\*有効



102033

無効



102032

### 3.20.1 チェックデジットの確認

有効



102035

\*無効



102034



3.21.3 DATA MATRIX



ミラーDATA MATRIX .

- ▶ 無効 — ミラーイメージの Data Matrix を読み取らない.
- ▶ 有効— ミラーイメージの Data matrix のみを読み取る.
- ▶ 自動 — ミラーイメージおよび通常の Data Matrix を読み取る.



反転 DATA MATRIX

- ▶ 無効 — 反転 Data Matrix を読み取らない.
- ▶ 有効— 反転 Data matrix のみを読み取る.

自動 — 反転および通常の Data Matrix を読み取る



更新

### 3.21.4 QR CODE

\*有効



無効



#### ミラーQR CODE

- ▶ 無効 — ミラーイメージの QR Code を読み取らない.
- ▶ 有効 — ミラーイメージの QR Code のみを読み取る
- ▶ 自動 — ミラーイメージおよび通常の QR Code を読み取る.

\*無効



有効



自動



#### 反転 QR CODE

- ▶ 無効 — 反転 QR Code を読み取らない.
- 有効 — 反転 QR Code のみを読み取る
- 自動 — 反転および通常の QR Code を読み取る

\*無効



有効



自動



3.21.5 MicroQR

有効



102043

\*無効



102042



更新





## 出力フォーマットの設定

収集したデータをホストコンピュータに出力するフォーマットを設定できます。。

- 6) 1) スキャンされたデータ上で文字の置換を実行します。
- 2) [Code IDと長さコード](#)を データの前に追加します: [Code ID][Length Code][Data]
- 3) ユーザーフォーマットのステップ 2 でデータ全体を処理します。ユーザー指定の規則により、データはフィールドに分割されます。[第 6 章 データ編集用のフォーマットを適用する](#)を参照してください。
- 4) [プリフィックス コード](#) と [サフィックスコード](#)を追加してから転送します: [Prefix Code][Processed Data][Suffix Code]

### 本章の目次

4.1 大文字/小文字の区別 .....	112
4.2 文字置換 .....	113
4.3 プレフィックス/サフィックス .....	123
4.4 Code ID .....	124
4.5 長さ Code .....	130
4.6 マルチバーコード編集 .....	136
4.7 特定文字の削除 .....	139

5)



## 4.1 大文字・小文字の区別

デフォルトで、アルファベット転送は大文字と小文字を区別します。つまり、アルファベットの  
大文字・小文字はその元の文字通りに転送されます。元の大文字・小文字を無視するには、  
[Upper Case (大文字)]を選択して大文字でのみデータを出力します。または、  
[Lower Case (小文字)]を選択して小文字でのみデータを出力します。



## 4.2 文字置換

- ▶ 「置換される」文字と、その文字を「置換」する文字を指定します。「置換される」文字のみが設定された場合はその文字が削除されます。
- ▶ 最初の設定した文字が2番目に設定した文字に置き換えられます。
- ▶ 3 セットまでの文字置換を設定できます。
- ▶ 「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
スキャンコード	スキャンコード値は1つのみ許可されます	N/A
通常キー	最大3文字列まで許可されます。	Shift の追加 左 Ctrl の追加 Alt の追加 右 Ctrl の追加 右 Alt の追加

注記: 文字置換は、バーコード自体で、編集フォーマットの処理前にのみ行われます。文字置換はプリフィックス/サフィックスコード、Code ID、長さコード、任意の追加フィールドには適用されません。



## 4.2.1 文字置換セットの選択



- 1) セットごとに文字置換を有効にするには、上のバーコードを読み取ります。  
 例えば、スキャナーに「セット 1」のバーコードを読み取らせると、文字置換の最初の設定が実行されます。スキャナーから高いトーンの、短いビープ音を1回返されると、セットアップバーコードがさらに必要なことを示しています。
- 2) 「[16進値](#)」バーコードをお読みください。例、  
**キータイプ = 通常**
  - ▶ “3”，“0”，“2”と“D”を読み取り、文字“0”をダッシュ“-”で置き換える。
  - ▶ “3”，“0”，“2”，“D”，“3”と“0”を読み取り、文字“0”をダッシュ“-0”で置き換える。**キータイプ= スキャンコード**  
 文字“0”を“a”(= スキャンコード表の“1C”)に置き換えたい場合:
  1. “3”と“0”を読み取ります。
  2. “Scan Code”バーコードを読み取ります。
  3. “1”と“C”を読み取ります。**キータイプ = 通常 + キーステータス = Shift**  
 文字“0”を“!”に置き換えたい場合(= キーボードの“Shift”+ ”1”):
  1. “3”と“0”を読み取ります。
  2. “Shift の追加”バーコードを読み取ります。
  3. “3”と“1”を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。(デフォルトで、定義された1つまたは複数のセットはすべてのシンボル体系に適用されます)



### 4.2.2 文字置換用のシンボル体系(3 セットすべて)

デフォルトで、文字置換はすべてのシンボル体系で実行されます。1 つ以上のシンボル体系に目的のシンボル体系がない場合、不要なシンボル体系のそれぞれに対して「適用しない」バーコードを読み取ると、3 つのセットすべてが無視されます。

#### Codabar 文字置換

\*適用



101253

適用しない



101252

#### Code 39 文字置換

\*適用



101241

適用しない



101240

#### Code 93 文字置換

\*適用



101255

適用しない



101254

#### Code 128 文字置換

\*適用



101257

適用しない



101256



更新

### GS1-128 文字置換

---

*適用	 101259
適用しない	 101258

### ISBT 128 文字置換

---

*適用	 101293
適用しない	 101292

### EAN-8 (No アドオン) 文字置換

---

*適用	 101267
適用しない	 101266

### EAN-8 アドオン 2 文字置換

---

*適用	 101269
適用しない	 101268

---



## EAN-8 アドオン 5 文字置換

*適用	
	101271
適用しない	
	101270

## EAN-13 (No アドオン) 文字置換

*適用	
	101273
適用しない	
	101272

## EAN-13 文字置換

*適用	
	101275
適用しない	
	101274

## EAN-13 アドオン 5 文字置換

*適用	
	101277
適用しない	
	101276

## French Pharmacode 文字置換

*適用	
	101245
適用しない	
	101244



更新

**Italian Pharmacode 文字置換**

---

\*適用



適用しない



**Industrial 25 文字置換**

---

\*適用



適用しない



**Interleaved 25 文字置換**

---

\*適用



適用しない



**Matrix 25 文字置換**

---

\*適用



適用しない





## MSI 文字置換

\*適用



101285

適用しない



101284

## Plessey 文字置換

\*適用



101287

適用しない



101286

## GS1 DataBar 文字置換

\*適用



101291

適用しない



101290

## Telepen 文字置換

\*適用



101289

適用しない



101288

## UPC-A (No アドオン) 文字置換

\*適用



101279

適用しない



101278



更新

---

UPC-A アドオン 2 文字置換

---

\*適用



適用しない



---

UPC-A アドオン 5 文字置換

---

\*適用



適用しない



---

UPC-E (No アドオン) 文字置換

---

\*適用



適用しない



---

UPC-E アドオン 2 文字置換

---

\*適用



適用しない



## UPC-E アドオン 5 文字置換

\*適用



101265

適用しない



101264

## Code 11 文字置換

\*適用



101297

適用しない



101296

## PDF417 文字置換

\*適用



102635

適用しない



102634

## MicroPDF417 文字置換

\*適用



102637

適用しない



102636

## Data Matrix 文字置換

\*適用



102639

適用しない



102638



更新

QR Code 文字置換

---

\*適用



適用しない



MicroQR 文字置換

---

\*適用



適用しない



### 4.3 プレフィックス/サフィックスコード

- ▶ デフォルトでは、プリフィックスコードはなく、[ENTER]または[CR]（キャリッジリターン）がサフィックスコードになるように設定されています。例えば、「Barcode\_」などのように8文字まで設定可能なため、この一「Barcode\_1234567890」のようにバーコード読み取りの前に文字列を表示させることができます
- ▶ 「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
スキャンコード	最大 4 つのスキャンコード値が許可されます。	N/A
通常キー	最大 8 つの文字列が許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Shift の追加</li> <li>▶ 左 Ctrl の追加</li> <li>▶ 左 Alt の追加</li> <li>▶ 右 Ctrl の追加</li> <li>▶ 右 Alt の追加</li> </ul> キーウェッジ表を参照してください。

プレフィックスの設定



サフィックスの設定



- 1) プリフィックスコードまたはサフィックスコードを別々に適用するには、上のバーコードを読み取り、手順 2～3 に従います。(それぞれ、最大 8 文字)
- 2) 目的の文字置換については、「[16 進値](#)」バーコードをお読みください。例えば、先頭または末尾に「+」の文字を置く場合、「2」と「B」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



更新

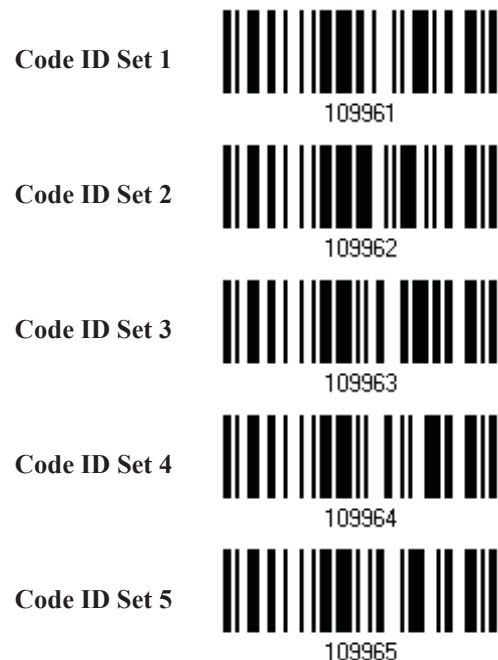
## 4.4 CODE ID

- ▶ Code ID は、2 文字までをそれぞれのシンボル体系に対して設定できます。Code ID をより簡単に設定できるように、5 つの定義済み CodeID セットが用意されています。
- ▶ 「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
スキャンコード	スキャンコード値は1つのみ許可されます。	N/A
通常キー	最大 2 文字列まで許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Shift の追加</li> <li>▶ 左 Ctrl の追加</li> <li>▶ Alt の追加</li> <li>▶ 右 Ctrl の追加</li> <li>▶ 右 Alt の追加</li> </ul> キーボードウェッジ表を参照してください。

注記: 「]C1」は GS1-128 (EAN-128) バーコードの Code ID で、「]e0」は GS1 DataBar (RSS) バーコードのデフォルトの Code ID です。

### 4.4.1 定義済み CODE ID の選択



Code ID オプション	Set 1	Set 2	Set 3	Set 4	Set 5
Code 39	A	C	Y	M	A
Italian Pharmacode	A	C	Y	M	A
French Pharmacode	A	C	Y	M	A
Industrial 25	C	H	H	H	S
Interleaved 25	D	I	Z	I	S
Matrix 25	E	G	G	G	S
Codabar	F	N	X	N	F
Code 93	I	L	L	L	G
Code 128	H	K	K	K	C
ISBT 128	H	K	K	K	C
UPC-E	S	E	C	E	E
EAN-8	P	B	B	FF	E
EAN-13	M	A	A	F	E
UPC-A	J	A	A	A	E
MSI	V	V	D	P	M
Plessey	W	W	E	Q	P
Telepen	Z	---	---	---	---
Code 11	K	J	J	D	H
PDF417	a	O	W	T	L
MicroPDF417	b	P	V	U	L
Data Matrix	c	Q	U	V	d
QR Code	e	S	S	X	Q
MicroQR	f	T	R	Y	Q

上記5セット以外に、AIM Code ID を選択することも出来ます。

AIM Code ID を適用



102270

\* AIM Code ID を適用  
しない



102269



更新

AIM Code ID を選択した場合、3個の文字が出力データの前に付加されます。“]”が常に最初の文字です。2番目(Character) および3番目(Modifier Character)の文字は以下の通りです。

バーコード	Character	Modifier Character
Codabar	F	0: 標準 Codabar。
Code 11	H	0: Single modulo 11 check character 確認し転送する 1: Two modulo 11 check characters 確認し転送する 3: Check characters 確認し転送しない ?: check character 確認しない
Code 39	A	0: No check character validation nor full ASCII processing. All data transmitted as decoded. 1: Modulo 43 check character 確認し転送する 3: Modulo 43 check character 確認し転送しない 4: Full ASCII キャラクター変換. check character は確認されない. 5: Full ASCII キャラクター変換。Modulo 43 check character 確認し転送する 6: Full ASCII キャラクター変換。Modulo 43 check character は確認し転送しない。
Code 93	G	常に" 0".
Code 128	C	0: 標準. No FNC1 in first or second symbol character position after start character. 1: EAN/UCC-128. スタートキャラクターの後、1番目のシンボルキャラクターの位置に FNC1。 2: スタートキャラクターの後、2番目のシンボルキャラクターの位置に FNC1。 3: International Society for Blood Transfusion 規格準に準拠して連結されている。
GS1 DataBar Family	e	常に 0. GS1 DataBar および GS1 DataBar Limited transmit の AI は "01".
Interleaved 25	I	0: check character 確認しない 1: Modulo 10 symbol check character 確認し転送する 3: Modulo 10 symbol check character 確認し、転送しない
MSI	M	0: Modulo 10 symbol check character 確認し転送する 1: Modulo 10 symbol check character 確認し、転送しない
Matrix 25	X	常に 0.





Plessey	P	常に 0.
Industrial 25	S	常に 0.
Telepen	B	常に 0.
UPC/EAN	E	0: 標準 full EAN フォーマット (13桁: EAN-13, UPC-A, UPC-E; アドオン だけは含まない) 3: EAN-13, UPC-A, 又は UPC-E、アドオンの2または5桁を結合 4: EAN-8 データ
DataMatrix	d	1: ECC 200
PDF417/Micro PDF417	L	2: ENV 12925 for Extended Channel Interpretation プロトコル準拠
QR/Micro QR	Q	1: Model 2 シンボル, ECI プロトコルに準拠しない

#### 4.4.2 CODE ID の変更

- 1) 特定のシンボル体系の CODE ID を変更するには、以下のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字置換については、「[16進値](#)」バーコードをお読みください。例えば、Code ID に対して文字 [D] を適用するには、「4」と「4」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります

Codabar



101456

Code 39



101450

Code 93



101457

Code 128



101458

ISBT 128



101466

EAN-8



101460



更新

**EAN-13**



101461

**French Pharmacode**



101452

**Italian Pharmacode**



101451

**Industrial 25**



101453

**Interleaved 25**



101454

**Matrix 25**



101455

**MSI**



101463

**Plessey**



101464

**Telepen**



101465

**UPC-A**



101462

**UPC-E**



101459

**Code 11**



101499



PDF417



102580

MicroPDF417



102581

Data Matrix



102582

QR Code



102584

MicroQR



102585

### 4.4.3 CODE ID 設定の消去

すべての Code ID 設定  
を消去する



109960



更新

## 4.5 長さコード(LENGTH CODE)

バーコードデータの長さ(文字数)を表す 4 桁のコードは、転送されるデータの前に付加できます。それぞれのシンボル体系について、そのような「長さ」コードは個別に有効または無効にできます。

### Codabar の長さコード

適用



101413

\*適用しない



101412

### Code 39 の長さコード

適用



101401

\*適用しない



101400

### Code 93 の長さコード

適用



101415

\*適用しない



101414

### Code 128 の長さコード

適用



101417

\*適用しない



101416



GS1-128 & GS1 DataBar の長さコード

適用



101419

\*適用しない



101418

ISBT 128 の長さコード

適用



101435

\*適用しない



101434

EAN-8 の長さコード

適用



101423

\*適用しない



101422

EAN-13 の長さコード

適用



101425

\*適用しない



101424

French Pharmacode の長さコード

適用



101405

\*適用しない



101404



更新

---

Italian Pharmacode の長さコード

---

適用



\*適用しない



---

Industrial 25 の長さコード

---

適用



\*適用しない



---

Interleaved 25 の長さコード

---

適用



\*適用しない



---

Matrix 25 の長さコード

---

適用



\*適用しない



MSI の長さコード

適用



\*適用しない



Pleesey の長さコード

適用



\*適用しない



Telepen の長さコード

適用



\*適用しない



UPC-A の長さコード

適用



\*適用しない



UPC-E の長さコード

適用



\*適用しない



更新

### Code 11 の長さコード

---

適用



101439

\*適用しない



101438

### PDF417 の長さコード

---

適用



102533

\*適用しない



102532

### MicroPDF417 の長さコード

---

適用



102535

\*適用しない



102534

### Data Matrix の長さコード

---

適用



102537

\*適用しない



102536





---

QR Code の長さコード

---

適用



\*適用しない



---

MicroQR の長さコード

---

適用



\*適用しない



更新

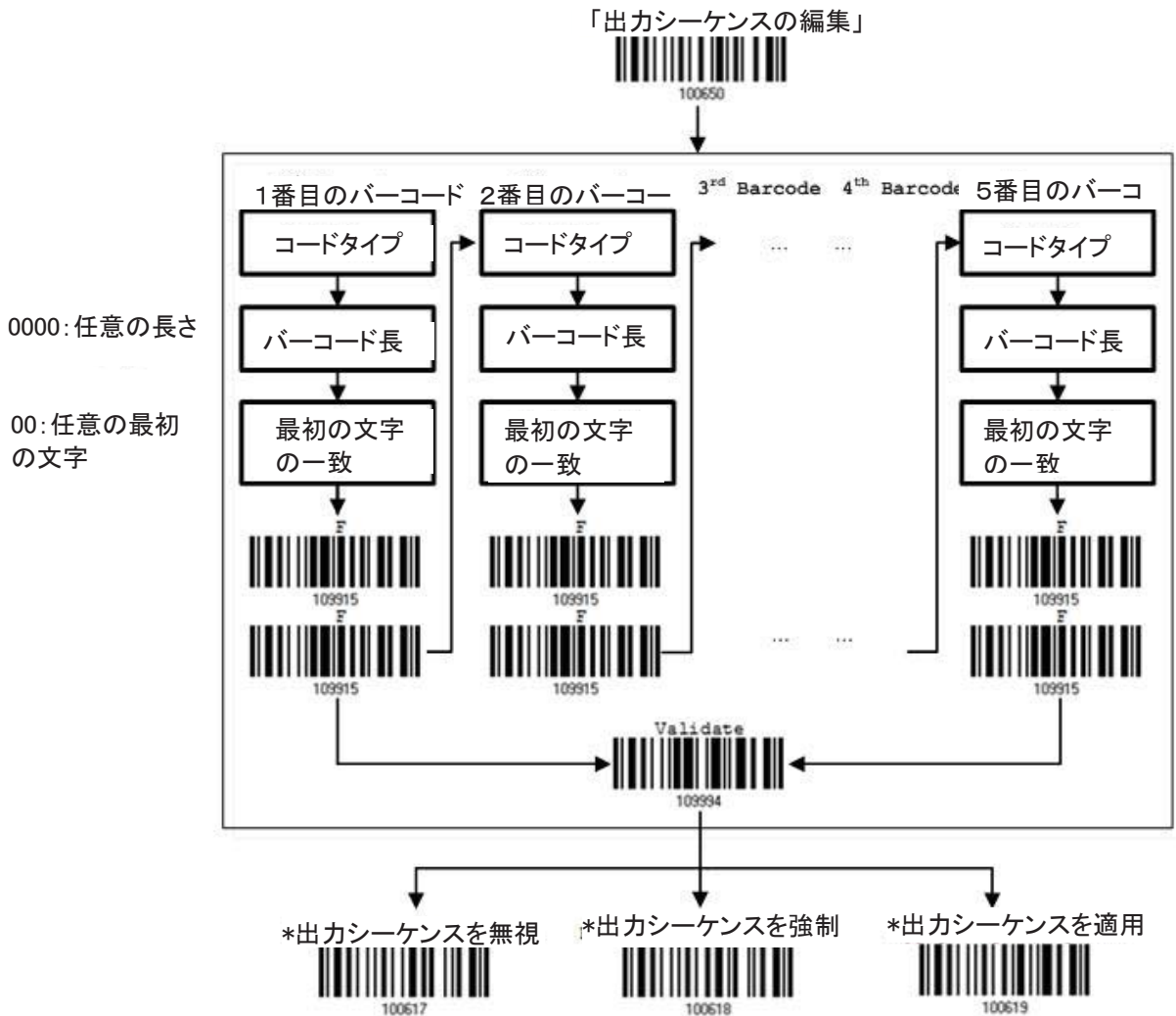
## 4.6 マルチバーコードエディタ

マルチバーコードエディタを設定して最大5個のバーコードを連結して出力できます。その場合スキャンモードはレーザーモードに設定されます。連結したすべてのバーコードの最大出力データ長は 10 KB です。データ長が 10 KB を超えると、連結は有効になりません。

注記: マルチバーコードエディタはMulti-Barcode モードと関係がありません。

以下の指定された基準に合致するバーコードは、希望するシーケンスで配列されます。

- ▶ コードタイプ的一致
- ▶ プリフィックス、サフィックス、長さコードなどを除いた、4桁のバーコード長的一致
- ▶ バーコードデータの最初の文字の一致



## 4.6.1 バーコード連結の編集

出力シーケンスの編集



- 1) バーコードの連結の編集を開始するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) コードタイプの設定 – (最初の)バーコードのコードタイプについては、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、Code 39 の場合「4」と「1」を読み取ります。

コードタイプ	バーコード	コードタイプ	バーコード
40 (@)	ISBT 128	52 (R)	EAN-13 with アドオン 5
41 (A)	Code 39	53 (S)	MSI
42 (B)	Italian Pharmacode	54 (T)	Plessey
43 (C)	French Pharmacode	55 (U)	GS1-128 (EAN-128)
44 (D)	Industrial 25	56 (V)	UPC-A
45 (E)	Interleaved 25	57 (W)	UPC-A with アドオン 2
46 (F)	Matrix 25	58 (X)	UPC-A with アドオン 5
47 (G)	Codabar (NW7)		
48 (H)	Code 93	5A (Z)	Telepen
49 (I)	Code 128	5B ( [ )	GS1 DataBar (RSS)
4A (J)	UPC-E0 / UPC-E1	67 (g)	Code 11
4B (K)	UPC-E with アドオン 2	6B (k)	PDF417
4C (L)	UPC-E with アドオン 5	6C (l)	MicroPDF417
4D (M)	EAN-8	6D (m)	Data Matrix
4E (N)	EAN-8 with アドオン 2		
4F (O)	EAN-8 with アドオン 5	6F (o)	QR Code
50 (P)	EAN-13		
51 (Q)	EAN-13 with アドオン 2	7B ( { )	Micro QR

- 3) バーコード長の設定 – (最初の)バーコードの4桁長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、65文字のバーコード長の場合は「0065」を、または任意の長さの場合は「0000」を読み取ります。
- 4) 注記: もし0000を読み取らない場合は、4桁長さにはプレフィックス/サフィックス(デフォルト値 0x0d)、長さ Code などは除外されます。
- 5) 一致する文字設定 – 最初の文字については「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、バーコードの最初の文字と一致する文字「A」の場合は「4」と「1」を読み取るか、任意の文字の場合「00」を読み取ります。



更新

- 6) それぞれのバーコードの設定を完了するには、「16進値」(「FF」)の「F」バーコードを2回読み取ります。
- 7) バーコードセットの編集を終了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

#### 4.6.2 バーコードの連結をアクティブにする

デフォルトで、バーコードの連結の出力シーケンス編集は適用されていません。

「Enforce Output Sequence (出力シーケンスの強制)」が選択されているとき、スキャナーによって読み取られるすべてのバーコードは、連結の基準に合致する必要があります。データがすべての出力シーケンスの基準に合致しない場合、スキャナーは読み取りを受け入れず、その結果、データは転送されません。

「Apply Output Sequence (出力シーケンスの適用)」が選択されているとき、基準に一致するバーコードのみが連結されます。基準を満たしていないバーコードは、の標準的に処理されます。

注記: 受け入れ可能なバーコードの読み取りが完了すると、スキャナーは短いビープ音(高い)を1回返し、LEDインジケータが赤色に点灯し、すぐに消えます(= Good Read)。受け入れ可能なバーコードを読み取った後、LEDのインジケータが緑色に点灯し、すぐに消えます(= Good Read)。

受け入れ可能なバーコードの読み取りが完了すると、スキャナーは短いビープ音(高い)を1回返し、LEDインジケータが赤色に点灯し、すぐに消えます(= Good Read)。

\*出力シーケンスを  
無視



出力シーケンスを  
強制



出力シーケンスを  
適用



警告: Multi-Barcode Editor を後で無効にした場合、スキャンモードはレーザーモードのままです。

レーザーモードが不要な場合、続けて自分の用途にもっとも適したスキャンモードを選択して下さい



## 4.7 特定文字の削除

指定できるのは 1 文字だけです。、バーコードデータの開始位置から異なる文字が表れるまで、指定された文字が削除されます。例えば、文字「0」(16 進数値は「30」)を削除するように指定した場合、1 つ以上のゼロがバーコードデータ「012345」および「00012345」から取り去られます。しかし、バーコードデータ「010333」の場合、最初のゼロのみが取り去られます。

特定文字を削除



- 1) 指定された文字を削除するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字については、「[16 進値](#)」バーコードをお読みください。例えば、「0」の文字を削除する場合、「3」と「0」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



更新



## データ編集用のフォーマットを適用する

ユーザー設定の編集フォーマットにより詳細なデータ編集が可能になります。ユーザー指定のルールにより、処理されたデータ全体がフィールドに分けられます。これらのフィールドはユーザー設定可能な追加フィールドと共に、ホストコンピュータに実際に転送されます。

編集フォーマットを適用すると、設定後のすべてのバーコードの最大出力データ長は 7 KB になります。データ長が 7 KB を超えると、編集フォーマットは有効になりません

[Prefix Code]	[Code ID]	[Length Code]	[Data]	[Suffix Code]	Additional Field(s)
デフォルトでは無し	デフォルトでは無し	デフォルトでは無し	データはそのまま	デフォルトでは 0x0d	

### 本章の目次

5.1	編集フォーマットをアクティブにする .....	142
5.2	編集フォーマット設定方法 .....	144
5.3	フォーマットの設定 - データ基準の定義 .....	147
5.4	フォーマットを設定する - データフィールドの定義 .....	155
5.5	フォーマットの設定 - 転送シーケンスの定義 .....	165
5.6	プログラミング例 .....	169



## 5.1 編集フォーマットをアクティブにする

### 5.1.1 編集フォーマットをアクティブにする

すでに編集フォーマットが設定されている場合、編集フォーマットを直接適用できます。未設定の場合は、まず編集フォーマットの設定を開始してから、使用するとき編集フォーマットをアクティブにします。

#### 編集フォーマット 1

適用



101301

\*無効



101300

#### 編集フォーマット 2

適用



101303

\*無効



101302

#### 編集フォーマット 3

適用



101305

\*無効



101304





#### 編集フォーマット 4



#### 編集フォーマット 5



### 5.1.2 排他的データ編集

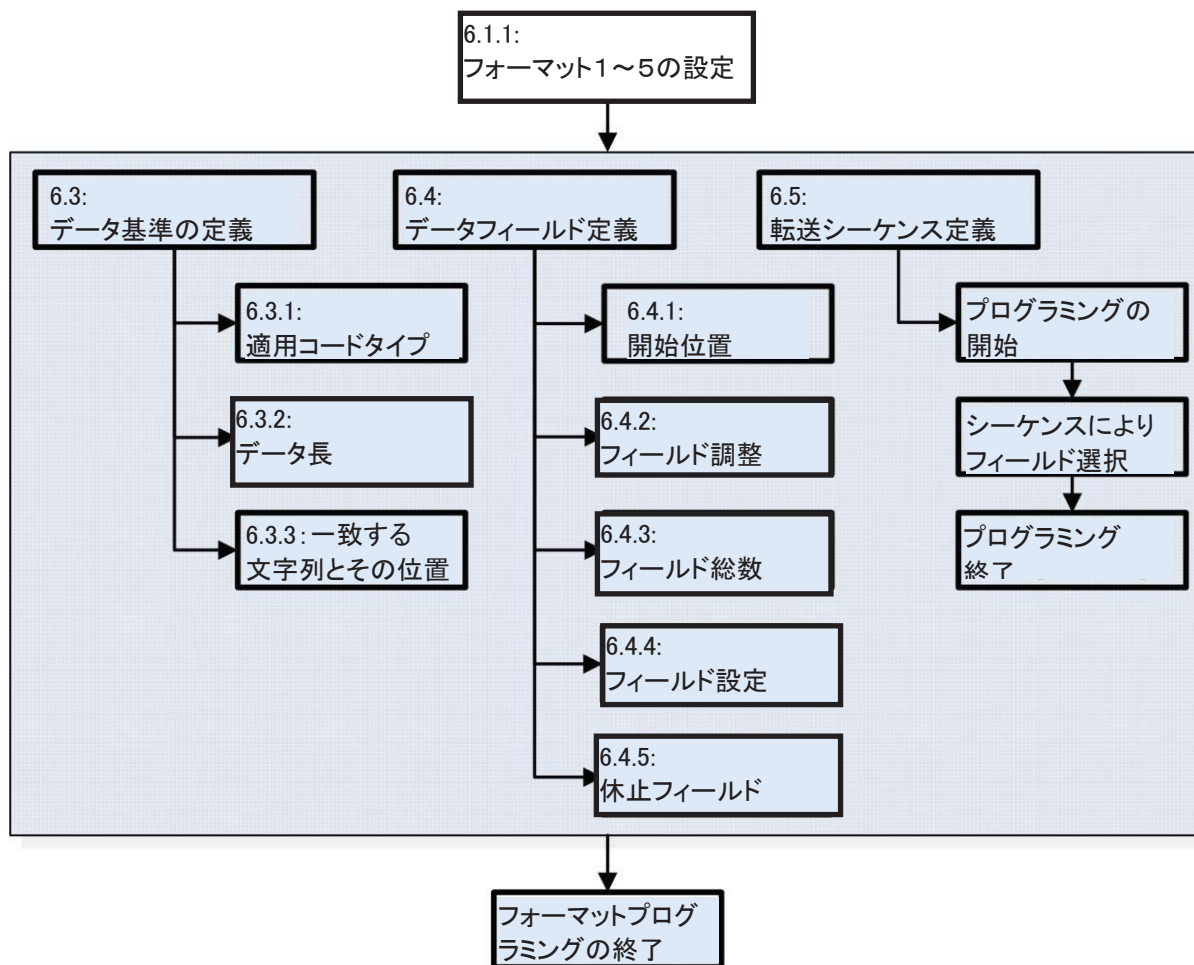
デフォルトで、基準を満たしたバーコードのみが編集フォーマットによって処理されます。基準を満たしていないバーコードは、通常通りに処理されます

「排他的データ編集」が有効になっているとき、スキャナーが読み取るバーコードはすべて編集フォーマットで処理されます。データが基準に合致しない場合はスキャナーは読み取りせずにその結果、データは転送されません。



Update

## 5.2 編集フォーマット設定方法



## 5.2.1 編集フォーマットの選択

### フォーマットプログラミングの開始

1 つの編集フォーマット(フォーマット 1~5)を選択すると、編集フォーマットに関連するパラメータ(適用可能なコードタイプ、データ長、一致する文字列と位置、開始位置、フィールド調整、フィールド総数、フィールド設定(フィールド区切りルール)、追加フィールド、フィールド転送シーケンス)を設定できます。

- ▶ フォーマットは、5 つまで指定できます。

Format 1 の設定



109981

Format 2 の設定



109982

Format 3 の設定



109983

Format 4 の設定



109984

Format 5 の設定



109985

注記: 編集フォーマットのプログラミングを完了する前に、スキャナーに編集フォーマットに関連するもの以外のパラメータのバーコードを読み取らせている場合、プログラミングプロセスは自動的に中止されます。

### フォーマットプログラミングの終了

目的のパラメータをすべて設定し終わったら、スキャナーに、本章のすべての偶数ページの下部に記載された「プログラミングフォーマットの終了」を読み取らせる必要があります。

フォーマットプログラ  
ミングのの終了



109980



Update

## 5.2.2 編集フォーマットをデフォルト値に戻す

デフォルト設定は以下の通りです.

編集フォーマット	デフォルト
適用コードタイプ	すべて
データ長	0 (必要条件なし)
一致する文字列	無効
一致する文字列の位置	なし
開始位置	先頭から
フィールド調整	調整なし
フィールド総数	1
フィールド設定 - フィールド区切りルール	未設定
追加フィールド	なし
フィールド転送シーケンス	F1

デフォルト値に戻す



### 5.3 フォーマットの設定 – データ基準の定義

スキャナーが読み取ったデータを特定の編集フォーマットで処理できるかどうかをチェックするために、3つの適用条件を設定します。

注記: 3つの条件がすべて満たされない場合、データ編集を実行することはできません。

#### 5.3.1 適用コードタイプ

デフォルトで、サポートされるすべてのシンボル体系のバーコードが、編集フォーマットによって処理されます。素早く制限するためには、まずすべてを消去してから、目的のシンボル体系を選択してください

注記: 少なくとも1つのシンボル体系を選択する必要があります。

\*すべてに適用



全て消去



#### Codabar

\*適用



適用しない



#### Code 39

\*適用



適用しない



Update

**Code 93**

---

*適用	 101515
適用しない	 101514

**Code 128**

---

*適用	 101517
適用しない	 101516

**GS1-128 & GS1 DataBar**

---

*適用	 101519
適用しない	 101518

**ISBT 128**

---

*適用	 101553
適用しない	 101552

**EAN-8**

---

*適用	 101527
適用しない	 101526



**EAN-8 アドオン 2**

\*適用



適用しない



**EAN-8 アドオン 5**

\*適用



適用しない



**EAN-13**

\*適用



適用しない



**EAN-13 アドオン 2**

\*適用



適用しない



**EAN-13 アドオン 5**

\*適用



適用しない



Update

### French Pharmacode

---

\*適用



適用しない



### Italian Pharmacode

---

\*適用



適用しない



### Industrial 25

---

\*適用



適用しない



### Interleaved 25

---

\*適用



適用しない



### Matrix 25

---

\*適用



適用しない





MSI

*適用	
	101545
適用しない	
	101544

Plessey

*適用	
	101547
適用しない	
	101546

Telepen

*適用	
	101549
適用しない	
	101548

UPC-A

*適用	
	101539
適用しない	
	101538

UPC-A アドオン 2

*適用	
	101541
適用しない	
	101540



Update

### UPC-A アドオン 5

---

\*適用



適用しない



### UPC-E

---

\*適用



適用しない



### UPC-E アドオン 2

---

\*適用



適用しない



### UPC-E アドオン 5

---

\*適用



適用しない



### Code 11

---

\*適用



適用しない



PDF417

\*適用



101653

適用しない



101652

MicroPDF417

\*適用



101655

適用しない



101654

Data Matrix

\*適用



101657

適用しない



101656

QR Code

\*適用



101661

適用しない



101660

MicroQR

\*適用



101663

適用しない



101662



Update

### 5.3.2 データ長

データ長にはプリフィックス、サフィックス(デフォルトで、0x0d)、長さコードなどを含む必要があります。デフォルトでは、すべての長さ(文字数)のバーコードがデータ編集の対象となります。

- ▶ データ長値を指定します。
  - ▶ ゼロが両方に与えられているとき、スキャナーは長さ制限を実行しません。
- 1) 以下のバーコードを読み取り最大長または最小長を別々に指定して手順 2~3 に従います。



- 2) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

### 5.3.3 一致する文字列と位置

- ▶ デフォルトで、照合文字列は指定されていないため無効になっています。一致する文字列を指定することで、この機能を有効にできます。最大 4 文字まで許可されます。
  - ▶ 照合文字列位置がゼロのとき、スキャナーはバーコードデータの照合文字列の存在のみを確認します。
- 1) 一致する文字列がバーコードデータのどこから始まるかを示すために、値を指定します..



- 2) 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
- 4) バーコードを読み取り、一致する文字列の位置を指定してください。



- 5) 目的の位置については「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 6) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 5.4 フォーマットを設定する – データフィールドの定義

### 5.4.1 開始位置

データは次の方向のいずれかで、フィールドに分割されます。

- ▶ 先頭(F1)から末尾へ(F5)
- ▶ 末尾(F1)から先頭へ(F5)

\*先頭から



末尾から



### 5.4.2 フィールド調整

必要に応じて、すべてのフィールドに等しい長さを適用できます。データが指定より長い場合、自動的に切り詰められます。データが短い場合、フィールドに「スペース」(0x20)が追加されます。

\*調整なし



長さを設定してフィールドを調整する...(\*0)



- 1) 長さによってフィールドを調整するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的のフィールド長については、[10進値](#) バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



Update

### 5.4.3 フィールド総数

- ▶ データは多くても6つのフィールドに分割され、そのそれぞれにF1～F6の番号が付けられます。しかし、F1～F5のみが設定可能です。
- ▶ フィールドの総数は正しく指定する必要があります。編集フォーマットに対して3つのフィールドが設定される場合、F3の後でデータ文字がF4に自動的に割り当てられます。可変長のデータが編集フォーマットにより処理される時は特に、この機能がとても役立ちます。



注記: 設定可能なフィールド数は、指定されたフィールドの総数より常に1つ少ない数です。設定された最後のフィールドを超える余分なデータは、次のフィールドに自動的に割り当てられます。



#### 5.4.4 フィールド設定

編集フォーマットの対象となるフィールドは、フィールド区切り文字列または指定されたフィールド長のいずれかを使用して、ユーザー指定の規則によるフィールドに分割されます

##### 区切り文字列で

フィールド区切り文字列を指定します。最大2文字まで許可されます。スキャナーは、データ内のこの特定の文字列の出現を調べます

- ▶ デフォルトで、この文字列はフィールドに含まれます。

##### 長さによって

または、フィールド長を指定することができます。スキャナーは、指定した次の文字数をフィールドに割り当てます。



## フィールド 1 設定

1. 指定した区切り文字列によりフィールド 1 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字  
列を選択してフィー  
ルド 1 を分割する



2. 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適の場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

\*区切り文字を含む



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 1 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによってフィー  
ルド 1 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。





## フィールド 2 設定

1. 指定した区切り文字列によりフィールド 2 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字  
列を選択してフィー  
ルド 2 を分割する



2. 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適当な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

\*区切り文字列を含め  
る



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 2 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによってフィー  
ルド 2 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



### フィールド 3 設定

1. 指定した終了文字列によりフィールド 3 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字  
列を選択してフィー  
ルド 3 を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

\*区切り文字列を含め  
る



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 3 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによってフィー  
ルド 3 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



#### フィールド 4 設定

1. 指定した終了文字列によりフィールド 4 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字  
列を選択してフィール  
ド 4 を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

\*区切り文字列を含め  
る



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 4 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによってフィール  
ド 4 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



### フィールド 5 設定

1. 指定した終了文字列によりフィールド 5 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字  
列を選択してフィール  
ド 5 を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

\*区切り文字列を含め  
る



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 5 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによってフィール  
ド 5 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 追加フィールド

それぞれの編集フォーマットに対して 5 つまでフィールドを追加で作成できます。それぞれのフィールドには AF1～AF5 の数字が付けられます。

- ▶ 「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
スキャンコード	スキャンコード値は 2 つまで許可されます。	N/A
通常キー	最大 4 文字列まで許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Shift の追加</li> <li>▶ 左 Ctrl の追加</li> <li>▶ Alt の追加</li> <li>▶ 右 Ctrl の追加</li> <li>▶ 右 Alt の追加</li> </ul>

- 一度に 1 つずつ追加フィールドを指定するには、以下のバーコードを読み取ります。

追加フィールド 1...



101584

追加フィールド 2...



101585

追加フィールド 3...



101586

追加フィールド 4...



101587

追加フィールド 5...



101588

- 目的の追加フィールドについては、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



## 5.4.5 休止フィールド設定

### 休止フィールド時間

休止時間を(1~16)に制限できます。デフォルトでは、1 秒に設定されています。

休止フィールド時間  
1~16 秒 (\*1 秒)



1. 休止フィールドの時間を指定するには、上のバーコードを読み取ります。(デフォルトでは、1 に設定されています。)
2. 「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、休止フィールド時間を 10 秒に設定する場合、「1」と「0」を読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



## 5.5 フォーマットの設定 — 転送シーケンスの定義

データフィールドと追加フィールドを設定した後、最終データから成るこれらのフィールドの転送シーケンスをプログラムできるようになります。このフィールド転送シーケンスは目的の順序で割り当てることが可能で、フィールドも何度でも割り当てることができます。

注記: 最大 12 のフィールドを割り当てることができます。

フィールド転送シーケンスのプログラミングから始めるには、「開始」バーコードを読み取ります。

プログラミングの開始

...



101589

4)

5) 次ページの目的のフィールドと追加フィールドを読み取ることで、転送シーケンスをプログラムします。



Update

フィールド 1	 109901
フィールド 2	 109902
フィールド 3	 109903
フィールド 4	 109904
フィールド 5	 109905
フィールド 6	 109906
追加フィールド 1	 109907
追加フィールド 2	 109908
追加フィールド 3	 109909
追加フィールド 4	 109910
追加フィールド 5	 109911
休止フィールド	 109912





ヌル文字フィールド	
	109913
フィールド 1	
	109901
フィールド 2	
	109902
フィールド 3	
	109903
フィールド 4	
	109904
フィールド 5	
	109905
フィールド 6	
	109906
追加フィールド 1	
	109907
追加フィールド 2	
	109908
追加フィールド 3	
	109909
追加フィールド 4	
	109910
追加フィールド 5	
	109911



Update

休止フィールド



109912

ヌル文字フィールド



109913

6) この設定を完了するには、「終了」バーコードを読み取ります。

プログラミングの終了...



109994



## 5.6 プログラミング例

### 5.6.1 例1

10 番目の文字から 19 番目の文字までのデータを抽出します...

編集フォーマットを次のように設定します。

1. 「セットアップに入る」バーコードを読み取って設定モードに入ります。
2. 「フォーマット 1 の設定」バーコードを読み取ります。
3. 適用可能なコードタイプに対して、「すべて消去」と「Code 128」を読み取ります。
4. 「3 つのフィールド」バーコードを読み取ります。
5. 「長さによってフィールド 1 を分割」バーコードを読み取り、長さを 9 に設定します。  
フィールド 1 のデータは 1 番目の文字から始めて 9 番目の文字まで進みます。
6. 「長さによってフィールド 2 を分割」バーコードを読み取り、長さを 10 に設定します。  
フィールド 2 のデータは 10 番目の文字から始めて 19 番目の文字まで進みます。
7. 「開始(プログラミング)」バーコードを読み取って、転送シーケンスをプログラムします。
8. 「フィールド 2」バーコードを読み取ります。
9. 転送シーケンス設定を完了するには、「終了」バーコードを読み取ります。
10. 編集フォーマット 1 の設定を完了するには、「プログラミングフォーマットの終了」バーコードを読み取ります。
11. 編集フォーマット 1 を Code 128 に適用するには、「フォーマット 1 を有効にする」バーコードを読み取ります。
12. 設定モードを終了するには、「更新」バーコードを読み取ります。



## 5.6.2 例2

バーコードから日付コード、項目番号、数量情報を抽出

バーコードのデータはこのようにエンコードされています。

▶1 番目の文字から 6 番目の文字までは、日付コードです。

▶7 番目の文字からダッシュ「-」文字までは、項目番号です。

▶ダッシュ「-」文字の後に数量情報が続きます。

データはこのように転送されます。

▶項目番号が最初に送られ、次に TAB 文字、次に日付コード、別の TAB 文字が続き、そして数量情報で終わります。

編集フォーマットを次のように設定します。

- 1 「セットアップに入る」バーコードを読み取って設定モードに入ります。
- 2 「フォーマット 2 の設定」バーコードを読み取ります。
- 3 「3 つのフィールド」バーコードを読み取ります。
- 4 「長さによってフィールド 1 を分割」バーコードを読み取り、長さを 6 に設定します。  
フィールド 1 のデータは 1 番目の文字から始まって 6 番目の文字まで進みます。
- 5 「フィールド区切り文字列を選択してフィールド 2 を分割する」バーコードを読み取り、ダッシュ「-」文字を使用します。  
フィールド 2 のデータは 7 番目の文字から始まり、ダッシュ「-」文字で終わります。
- 6 「追加フィールド 1」バーコードを読み取り、フィールド用のタブ文字を使用します。
- 7 「開始(プログラミング)」バーコードを読み取って、転送シーケンスをプログラムします。
- 8 「フィールド 2」、「追加フィールド 1」、「フィールド 1」、「追加フィールド 1」、「フィールド 3」バーコードを読み取ります。
- 9 転送シーケンス設定を完了するには、「終了」バーコードを読み取ります。
- 10 編集フォーマット 1 の設定を完了するには、「プログラミングフォーマットの終了」バーコードを読み取ります。
- 11 編集フォーマット 2 をすべてのコードタイプに適用するには、「フォーマット 2 を有効にする」バーコードを読み取ります。
- 12 設定モードを終了するには、「更新」バーコードを読み取ります。



# 付表1

## ファームウェアのアップグレード

### RS-232 を使う

- 1) RS-232 ケーブルでスキャナーと PC を接続し、電源につないで下さい。
- 2) 以下のバーコードを読み取ります。

セットアップに入る



RS-232 をアクティブにする



100001

115200 bps



100080

更新



109999

- 3) ダウンロードを開始するには、次のバーコードを順番に読み取ります。スキャナーからビープ音が鳴り、ダウンロードの準備ができたことを知らせます。

セットアップに入る



ダウンロード



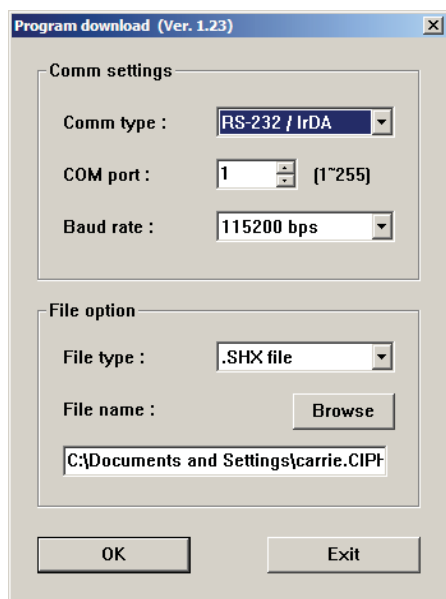
109997

- 4) コンピュータでダウンロードユーティリティ「ProgLoad.exe」を実行します。



更新

カーネルプログラム	ユーザープログラム
K1564_V*.shx	STD1564_V*.shx



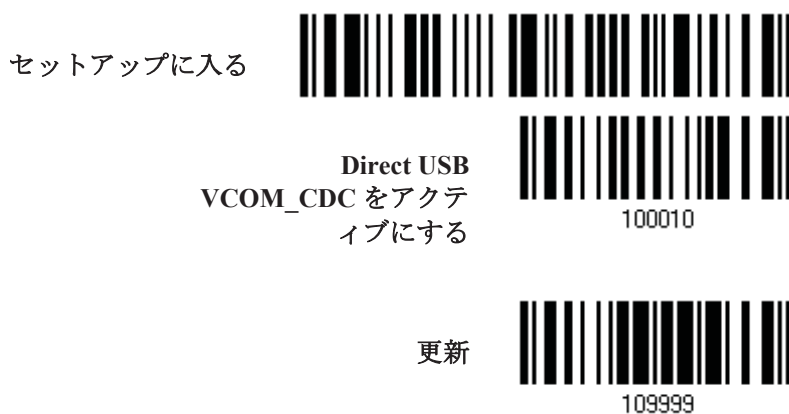
- ▶ 通信設定の場合、RS-232 or USB Virtual COM インターフェイス用の「RS-232」と正しいCOMポートを選択します。
- ▶ RS-232 の場合、ボーレートについては115200 bps を、USB Virtual COM については、ボーレート設定を無視します。
- ▶ ファイルオプションの場合、[Browse(閲覧)] をクリックしてファームウェア更新用ターゲットファイルを選択します。
- ▶ [OK] をクリックします。

5) カーネルをアップグレードした後、スキャナーを手動で再起動する必要があります。  
 ユーザープログラムをアップグレードした後、ダウンロードが正常に完了していれば、スキャナーは自動的に再起動します。  
 注記: 出力インターフェイスは、手順2 (= RS-232 または USB Virtual COM)で指定したように変わりません。  
 RS-232 の場合、ボーレート設定はまだ 115200 bps のままです!

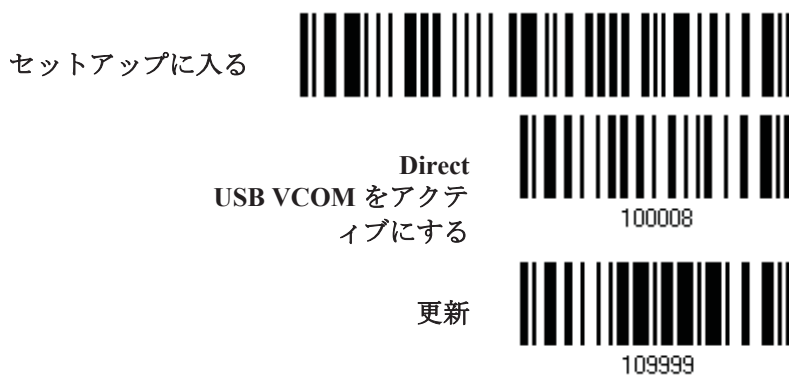


## USB VIRTUAL COM を使う

- 1) USB ケーブルでスキャナーとコンピューターを接続します。
  - ▶ USB Virtual COM を初めて使う場合はドライバーを前もってインストールする必要があります。
- 2) Windows プラットフォームで、USB VCOM\_CDC をダウンロードインターフェースとして使うために以下のバーコードを読み取って下さい。



Windows プラットフォームでない場合は以下のバーコードを読み込んで下さい。

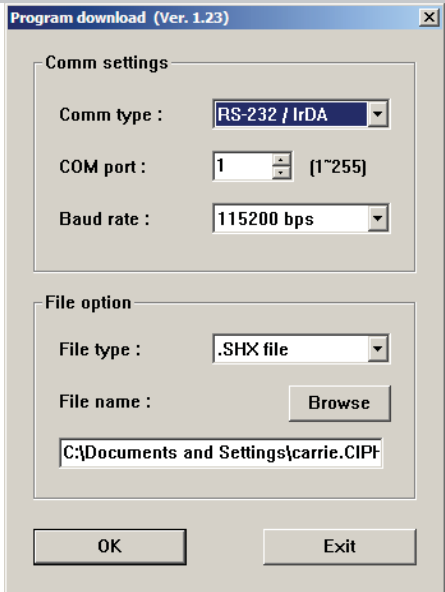


- 3) 以下のバーコードを読み込みスキャナーがダウンロードモードに移行します。スキャナーがビープ音で応答します。



- 4) ダウンロードユーティリティ“ProgLoad.exe”をコンピュータ上で実行します。

カーネルプログラム	ユーザープログラム
K1564_V*.shx	STD1564_V*.shx

- ▶ 通信設定の場合、RS-232 or USB Virtual COM インターフェイス用の「RS-232」と正しいCOMポートを選択します。
- ▶ RS-232 の場合、ボーレートについては 115200 bps を、USB Virtual COM については、ボーレート設定を無視します。
- ▶ ファイルオプションの場合、[Browse(閲覧)] をクリックしてファームウェア更新用ターゲットファイルを選択します。
- ▶ [OK] をクリックします。

- 5) カーネルをアップグレードした後、スキャナーを手動で再起動する必要があります。

ユーザープログラムをアップグレードした後、ダウンロードが正常に完了していれば、スキャナーは自動的に再起動します。

注記: 出力インターフェイスは、手順2 (= RS-232 または USB Virtual COM)で指定したように変わりません。RS-232 の場合、ボーレート設定はまだ 115200 bps のままです!





## 付表2

## ホストシリアルコマンド

## シリアルコマンド

## D

目的	スキャナーを無効にします。
備考	“D”

## E

目的	スキャナーを有効にします。
備考	“E”

## #@ nnnnnn &lt;CR&gt;

目的	スキャナーを設定します。
備考	nnnnnn – 6 桁のコマンドパラメータ。 例えば、「109952」は現在の Code ID 設定をリストアップします。



“0x23” + “0x40” + “0x31” + “0x30” + “0x39” + “0x39” + “0x35” + “0x32” + “0x0d”

注記: スキャナーを設定した後、シリアルコマンド「#@109999」を転送して設定を保存できます。

## #@ - - - - &lt;CR&gt;

目的	スキャナーを停止します。
備考	“0x23” + “0x40” + “0x2d” + “0x2d” + “0x2d” + “0x2d” + “0x0d”

## #@ .... &lt;CR&gt;

目的	操作を再開します。
備考	“0x23” + “0x40” + “0x2e” + “0x2e” + “0x2e” + “0x2e” + “0x0d”

## #@///// &lt;CR&gt;

目的	ビーブ音に応答します。
備考	“0x23” + “0x40” + “0x2f” + “0x2f” + “0x2f” + “0x2f” + “0x0d”



更新

**#@TRIGOFF<CR>**

目的 ソフトウェアトリガーを無効にする仕方  
備考 “0x23” + “0x40” + “0x54” + “0x52” + “0x49” + “0x47” + “0x4f” + “0x46” + “0x46” + “0x0d”

**#@TRIGON<CR>**

目的 ソフトウェアトリガーを有効にする仕方  
備考 “0x23” + “0x40” + “0x54” + “0x52” + “0x49” + “0x47” + “0x4f” + “0x4e” + “0x0d”

**#@RDSN<CR>**

目的 シリアル番号を読み取る  
備考 “0x23” + “0x40” + “0x52” + “0x44” + “0x53” + “0x4E” + “0x0D”

**#@BEEP、nn<CR>**

目的 指定した回数(00~99)だけスキャナーのビーブ音を鳴らします(00 は作業を停止)。ビーブ時間の長さは Good Read ビーブ設定の継続時間に基づき、一定間隔は 100ms です。  
備考 nn - 2 桁のコマンドパラメータ  
例えば、「#@BEEP,09」は 9 回スキャナーのビーブ音を鳴らします。  
“0x23” + “0x40” + “0x42” + “0x45” + “0x45” + “0x50” + “0x2c” + “0x30” + “0x39” + “0x0d”

**#@RLED、nn<CR>**

目的 指定した回数(00~99)だけスキャナーの赤色 LED インジケータを点滅させます(00 は作業を停止)。点滅時間の長さは Good Read LED 持続時間設定に基づいており、2 回の点滅の一定間隔は 200ms です。  
備考 nn - 2 桁のコマンドパラメータ  
例えば、「#@RLED,09」は 9 回スキャナーを点滅させます。  
“0x23” + “0x40” + “0x52” + “0x4c” + “0x45” + “0x44” + “0x2c” + “0x30” + “0x39” + “0x0d”

**#@GLED、nn<CR>**

目的 指定した回数(00~99)だけスキャナーの緑色 LED インジケータを点滅させます(00 は作業を停止)。点滅時間の長さは Good Read LED 持続時間設定に基づいており、2 回の点滅の一定間隔は 200ms です。  
備考 nn - 2 桁のコマンドパラメータ  
例えば、「#@GLED,09」は 9 回スキャナーを点滅させます。  
“0x23” + “0x40” + “0x47” + “0x4c” + “0x45” + “0x44” + “0x2c” + “0x30” + “0x39” + “0x0d”



## 例

HyperTerminal.exe をホストコンピューターで実行しシリアルコマンドをスキャナーに転送します。 .

▶ スキャナーを直ちに停止する場合 -

▶ D

▶ スキャナーを再開する場合 -

▶ E

スキャナーがビーパーの音量を「中」に変更して鳴らす場合 -

```
#@101011<CR>
```

```
#@////<CR>
```

スキャナーがビーパーの音量を「小」に変更して鳴らす場合 -

```
#@101010<CR>
```

```
#@////<CR>
```

スキャナーがビーパーの周波数を 8 kHz (Good Read ビープ音のみ)に変更して鳴らす場合 -

```
#@101001<CR>
```

```
#@////<CR>
```

スキャナーがビーパーの長さを最長(Good Read ビープ音のみ)に変更して鳴らす場合 -

```
#@101008<CR>
```

```
#@////<CR>
```

スキャナーが設定を保存する場合、シリアルコマンド「#@109999」を転送します -

```
#@101011<CR>
```

```
#@109999<CR>
```





## キーボードウエッジ

“Apply” Special Keyboard									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8
0		F2	SP	0	@	P	`	p	・
1	INS	F3	!	1	A	Q	a	q	・
2	DLT	F4	"	2	B	R	b	r	・
3	Home	F5	#	3	C	S	c	s	・
4	End	F6	\$	4	D	T	d	t	・
5	Up	F7	%	5	E	U	e	u	・
6	Down	F8	&	6	F	V	f	v	・
7	Left	F9	'	7	G	W	g	w	・
8	BS	F10	(	8	H	X	h	x	・
9	HT	F11	)	9	I	Y	i	y	・
A	LF	F12	*	:	J	Z	j	z	
B	Right	ESC	+	;	K	[	k	{	
C	PgUp	Exec	,	<	L	¥	l		
D	CR	CR*	-	=	M	]	m	}	
E	PgDn		.	>	N	^	n	~	
F	F1		/	?	O	_	o	Dly	ENTER *

注記: (1) ・～・: キーパッドの数字 (2) CR\*/ENTER\*: テンキーパッドの ENTER キー



"Bypass" Special Keyboard									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8
0			SP	0	@	P	`	p	
1			!	1	A	Q	a	q	
2			"	2	B	R	b	r	
3			#	3	C	S	c	s	
4			\$	4	D	T	d	t	
5			%	5	E	U	e	u	
6			&	6	F	V	f	v	
7			'	7	G	W	g	w	
8	BS		(	8	H	X	h	x	
9	HT		)	9	I	Y	i	y	
A	LF		*	:	J	Z	j	z	
B		ESC	+	;	K	[	k	{	
C			,	<	L	¥	l		
D	CR		-	=	M	]	m	}	
E			.	>	N	^	n	~	
F			/	?	O	_	o	Dly	

注記: (1) \*~\*: キーパッドの数字 (2) CR\*/ENTER\*: テンキーパッドの ENTER キー



## キータイプ、ステータス

### キータイプ

「BT HID」、「USB HID」または「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが利用できるようになります。

\*通常



スキャンコード



### キーステータス

キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを変更するかどうかを決定します。

Shift の追加



左 Ctrl の追加



右 Ctrl の追加



左 Alt の追加



右 Alt の追加



更新

## 例

### キータイプ=通常

例えば、プリフィックスコードのように「!」の文字をプログラムしたい場合:

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「2」と「1」については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

### キータイプ = Scan Code(スキャンコード)

例えば、プリフィックスコードのように「a」 (= スキャンコード表の「1C」)の文字をプログラムしたい場合:

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「Scan Code」バーコードを読み取ります。
3. 「1」と「C」については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
4. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

### キータイプ = 通常 + キーステータス = Shift

例えば、プリフィックスコードのように「!」 (= キーボードの「Shift」 + 「1」)の文字をプログラムしたい場合::

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「Shift の追加」バーコードを読み取ります。
3. 「3」と「1」については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
4. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

### キータイプ = 通常 + キーステータス = Ctrl

例えば、プリフィックスコードのように「Ctrl+A」と「Ctrl+\$」の文字をプログラムしたい場合:

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「左 Ctrl の追加」バーコードを読み取ります。
3. 「4」、「1」 (= 「A」)については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります
4. 「左 Ctrl の追加」バーコードを読み取ります。
5. 「2」、「4」 (= 「\$」)については、「[16進値](#)」バーコードを読み取ります。
6. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。





N 進法

10 進法

Decimal



確認



更新



中止



## 16 進法

Hexadecimal ※ 注記:「確認」バーコードは次ページ



---

確認

---

確認



109994

更新



中止



## ASCII TABLE

	0	1	2	3	4	5	6	7	
0		DLE	SP	0	@	P	`	p	
1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q	
2	STX	DC2	"	2	B	R	b	r	
3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s	
4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t	
5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u	
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v	
7	BEL	ETB	'	7	G	W	g	w	
8	BS	CAN	(	8	H	X	h	x	
9	HT	EM	)	9	I	Y	i	y	
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	z	
B	VT	ESC	+	;	K	[	k	{	
C	FF	FS	,	<	L	¥	l		
D	CR	GS	-	=	M	]	m	}	
E	SO	RS	.	>	N	^	n	~	
F	SI	US	/	?	O	_	o	DEL	



## 付表5

### キーボードタイプのワンスキャンバーコード

#### キーボードウエッジ

PCAT (US)



PCAT (French)



PCAT (German)



PCAT (Italian)



PCAT (Swedish)



PCAT (Norwegian)



PCAT (UK)



**PCAT (Belgium)**



#@KW0008#

**PCAT (Spanish)**



#@KW0009#

**PCAT (Portuguese)**



#@KW0010#

**PS55 A01-1**



#@KW0011#

**PS55 A01-2 (Japanese)**



#@KW0012#

**PS55 A01-3**



#@KW0013#

**PS55 001-1**



#@KW0014#

**PS55 001-81**



#@KW0015#

**PS55 001-2**



#@KW0016#

PS55 001-82



#@KW0017#

PS55 001-3



#@KW0018#

PS55 001-8A



#@KW0019#

PS55 002-1, 003-1



#@KW0020#

PS55 002-81, 003-81



#@KW0021#

PS55 002-2, 003-2



#@KW0022#

PS55 002-82, 003-82



#@KW0023#

PS55 002-3, 003-3



#@KW0024#

PS55 002-8A, 003-8A



#@KW0025#

IBM 3477 Type 4 (Japanese)



#@KW0026#

IBM 34XX/319X, Memorex Telex 122 Keys



User-defined table



PCAT (Turkish)



PCAT (Hungarian)



PCAT (Swiss German)



PCAT (Danish)





DIRECT USB HID を使う

PCAT (US)



PCAT (French)



PCAT (German)



PCAT (Italian)



PCAT (Swedish)



PCAT (Norwegian)



PCAT (UK)



PCAT (Belgium)



**PCAT (Spanish)**



**PCAT (Portuguese)**



**PS55 A01-2 (Japanese)**



**User-defined table**



**PCAT (Turkish)**



**PCAT (Hungarian)**



**PCAT (Swiss German)**



**PCAT (Danish)**

